

113

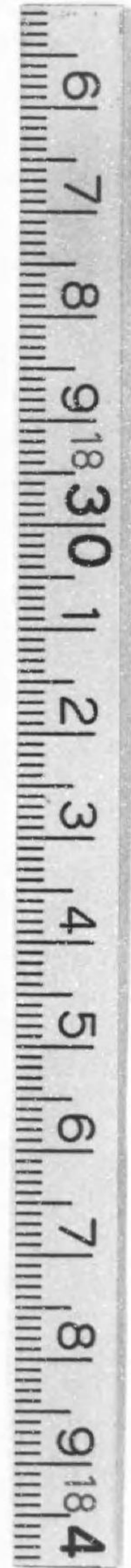
355
I34

新海事法令集

全

発行所

大阪 境川文庫



始



特218
199

新海事法令集

(昭和九年版)



全

發行所
大阪 境川文庫



はしがき

今から二十幾年前、海技試験の登龍門が
船員諸君のために期らかに開かれて希望華やかなりし
頃大阪で受験せられた諸君の其追憶のどこかの隅に些
やかな本屋と子供上りの私の俤が織込まれてあること
を不圖した機會に仄かに聞くときたゞ何とはなしに懐
しく憶ばれて……………
訣れて既に幾星霜の後にも諸君の上に幸多かれと蔭な
がら祈り、つ勿忘草の……………

新海事法令集

目次

第一章 船舶法

- 一、船舶法……………一頁
- 一、船舶法施行規則……………七頁
- 一、船鑑札規則……………三頁

第二章 積量測度法

- 一、船舶積量測度法……………元
- 一、船舶積量測度規程……………四
- 一、船舶積量測度心得……………五
- 一、石數船改測規則……………六
- 一、簡易船舶積量測度規程……………六

第三章 船舶安全法

- 一、船舶安全法……………空
- 一、船舶安全法施行令……………三

- 一、船舶安全法施行規則…………… 七四頁
- 一、船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件…………… 一六六〃
- 一、船舶設備規程…………… 一六八〃
- 一、船舶滿載吃水線規程…………… 一三四〃
- 一、船舶區畫規程…………… 一五六〃
- 一、木船構造規程…………… 三八〃
- 一、船舶機關規程…………… 三六三〃
- 一、船舶檢査施行地…………… 四六一〃
- 一、救命艇手適任證書交付規則…………… 四六五〃
- 一、海員養成所名…………… 四六八〃
- 一、漁船特殊規則…………… 四六九〃
- 一、漁船特殊規程…………… 四七二〃
- 一、漁船特殊規則ニ規定スル漁船ノ業務…………… 五〇〇〃

第四章 船員法

- 一、船員法…………… 五〇三〃
- 一、船員法施行細則…………… 五二五〃
- 一、船員最低年令法…………… 五四六〃
- 一、船員最低年令法施行令…………… 五四八〃

- 一、船員最低年令法施行細則…………… 五四九頁
- 一、船員證明規則…………… 五五四〃
- 一、商法第五篇…………… 五五五〃
- 一、船舶及船舶所有者…………… 五五五〃
- 一、船員…………… 五五九〃
- 一、運送…………… 五六五〃
- 一、船員法事務取扱管海官廳並指定市町村長名…………… 五六六〃

第五章 船舶職員法

- 一、船舶職員法…………… 五九一〃
- 一、船舶職員法施行細則…………… 五九七〃
- 一、公稱馬力算定方法…………… 六三六〃
- 一、船舶職員試驗規程…………… 六五〇〃

第六章 海員懲戒法

- 一、海員懲戒法…………… 七二一〃
- 一、海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域表…………… 七八〃
- 一、遞信局海事部出張所名稱位置及管轄區域表…………… 七九〃
- 一、地方海員審判所管轄區域表…………… 七二〃

第七章 海上衝突豫防法

一、海上衝突豫防法……………七三〇

一、内海水道航行規則……………七三六

一、内海水道航行規則ヲ海軍艦船ニ準用……………七四二

一、開港々々規則……………七四九

一、開港々々則施行規則……………七五二

一、海港檢疫法……………七五九

一、海港檢疫法施行規則……………七六三

附 錄

一、危險物船舶運送及貯藏規則……………七八〇

一、大阪府水路取締規則……………八〇六

一、大阪府汽船航運營業取締規則……………八三〇

新海事法令集

第一章 船舶法

明治三十二年三月公布 (同年六月十六日ヨリ施行)
同 三十八年三月改正 (同年四月十四日ヨリ施行)

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

- 一、日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
- 二、日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
- 三、日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ、合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 四、日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所

有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若ハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月分明ナラサルトキ亦同シ前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一個月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ要ス

トヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定

メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得第十

三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其効力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ

以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上

千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キト

キハ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ

百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條

ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ

行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共

犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論ス

ハカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス
 以下第四十一條マテ略ス

船舶法施行細則

明治三十二年六月公布選信省令 第廿四號
 昭和七年四月改正選信省令 第八號
 昭和八年七月二十六日改正選信省令 第三十二號

第一章 總 則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船帆船ノ別ヲ謂フ機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス
 主トシテ帆ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス
 第二條 浚渫船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス
 第三條 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル
 船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル
 船籍港ハ當該船舶所有者ノ住所、若シ住所カ前項ノ規定ニ該當セサル時ハ其最寄ノ地ニ之ヲ定ムヘシ但住所カ日本ニナキ場合其他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ選信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス、船舶所有者前項但書ノ認可ヲ受ケントスル時ハ其住所ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事ヲ經由シ申請書ヲ提出スヘシ
 第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

- 一、試運轉ノトキ
- 二、積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
- 三、正當ノ事由アルトキ

管海官廳ニ於テ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外第六號書式ノ航行認可書ヲ交附ス

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得

- 一、祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル
- 二、前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
- 三、進水ノトキ
- 四、前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條 船舶ノ積量若クハ登録ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スルタメ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條 本則ノ規定ニヨリ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ附錄第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書外ノ造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 前條ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令）第一條ノ規定ニ依リ領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第八條ノ三 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査施行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査施行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該管廳之ヲ指定ス

第十條 積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條 削 除

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ

第八條第二項ノ規定ニヨリ差出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テ既ニ登録シタル事項ニ變更アリト認メタルトキハ其變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

第十三條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

支那ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ對シ大正十四年勅令第三百二十七號第三條第二項但書ニヨリ內國ノ管海官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合亦前項ニ同シ

第十四條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其管轄區域内マテ航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條及第二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書及船舶積量測度表ヲ送付スヘシ

第十五條 削 除

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ內國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニヨリ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲナス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一、番 號
- 二、信 號 符 字
- 三、種 類
- 四、船 名
- 五、船 籍 港
- 六、船 質
- 七、帆船ノ帆裝
- 八、上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
- 九、船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅
- 十、長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深
- 十一、總 噸 數

十二、總 積 量

上甲板下ノ積量

上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量

船首樓ノ積量

船橋樓ノ積量

船尾樓ノ積量

甲板室ノ積量

艙口ノ超過積量

機關室ノ積量

其ノ他ノ場所ノ積量

十三、控除積量

船員常用室ノ積量

荷足水艙ノ積量

機關室ノ積量

帆船ノ帆庫ノ積量

其他ノ場所ノ積量

十四、純 積 量

十五、純 噸 數

十六、機關ノ種類及數

十七、推進器ノ種類及數

十八、造 船 地

十九、造 船 者

二十、進水ノ年月

廿一、原 名

廿二、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第二十二號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一、總 積 量

上甲板下ノ積量

上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量

二、控 除 積 量

第十七條ノ三 信號符字ハ「ア」ヲ頭字トスル「アルハベツト」四文字ヲ以テ之ヲ表示ス

信號符字ハ總噸數百噸以上ノ船舶ニ之ヲ點附ス總噸數百噸未滿ノ船舶ニ付テハ船舶所有者ノ申請ニ依リ信號符字ヲ點附シ又ハ取消スコトヲ得

第十七條ノ四 信號符字ノ點附又ハ取消ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一、前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二、船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ
三、所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶港ヲ定メタル船舶ノ船舶港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス

第二十一條 船舶港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條ノ二第一項第三號、第六號第七號第十六號又ハ第十七號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但シ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添附シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 船舶港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交附ヲ受クルコトヲ得前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條 第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスルモノハ申請書ニ其理由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添へ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船舶港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登録ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ其ノ登記所ニ通知スヘシ

- 一、船舶ノ種類、名稱及總噸數
- 二、船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三、抹消ノ登録ヲ爲シタル原因

四、抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限り船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交

付ス但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滞ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

第三十七條ノ二 假船舶國籍證書ノ書式ハ附錄第四號書式ニ依ル

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船舶港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ニ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其効力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ
船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アル事ヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第四十二條ノ二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ
英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條ノ三 第四十二條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

第四十二條ノ四 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニハ此限ニ在ラス

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

一、帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ

二、帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ

三、外國ノ港ヲ出入スルトキ

四、外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ

五、法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十四條 船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

一、船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ場所ニ船名及船籍港名ヲ十センチメートル以上ノ國字ヲ以テ記入スルコト

二、中央部船梁其他適當ノ所ニ船舶ノ番號、總噸數及純噸數ヲ彫刻シ又ハ之ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト

三、船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ吃水ヲ示ス爲船底ヨリ最大吃水線以上ニ至ルマテ二十センチメートル毎ニ十センチメートルノ亞刺比亞數字ヲ以テ吃水尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル吃水線ト一致セシムルコト

四、長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ積量測定ニ於テ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除シタル室及場所ノ見易キ所ニ其室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト
特殊ノ構造ヲ有スルタメ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ在リテハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

第一項第三號ニ依ル吃水尺度ノ外英尺ニ依リ吃水尺度ヲ標示スル場合ニ於テハ羅馬數字ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

第四十五條 削 除

第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久キニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登録税、手数料及旅費

第四十八條 登録税法ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録納付書ヲ登録ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

一、第十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第一號

二、船籍港以外ノ登録事項ノ變更ニ依リ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第四號

三、第二十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第三號

四、船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第二號

第四十九條 登録税法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ二各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス

第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數及税金額ヲ記載シ登録税法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

一、船舶ノ種類、名稱及總噸數

二、船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱

三、抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

四、登録税額

第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキ

ハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測度手数料表ニ定ムル測度手数料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ測度ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖測度着手後ナルトキハ測度手数料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第五十條ノ四 前條ノ測度手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ測度手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測度手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ區別、總噸數、(長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ總噸數ノ外ニ其長)新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別及手数料額ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記スヘシ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手数料ヲ納付スヘシ

一、船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ 一枚ニ付 二十錢

二、船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ 一回ニ付 二十錢

三、汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付 再交 付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 二圓

四、前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 四圓

- 五、帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付 再交
付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 一 圓
- 六、前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 二 圓

前項ノ手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第五十二條 登録稅又ハ手数料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條 検査官吏カ船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ船舶安全法施行規則第百八十四條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ其旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第五十三條ノ二 本則ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セス

第七章 罰 則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書假船舶國籍證書又ハ英譯書ノ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則 船舶積量測度手数料表

船舶積量手数料表

測度種類	船 種 類		測度種類
	船 種	噸 數	
新規測度又ハ全部改測	汽船及機關有スル帆船	七 圓	二十噸以上五十噸以下
	汽船及機關有スル帆船	十 圓	五十噸以上一百噸以下
一部改測	汽船及機關有スル帆船	五 圓	一百噸以上二百噸以下
	汽船及機關有スル帆船	七 圓	二百噸以上三百噸以下
汽船及機關有スル帆船	汽船及機關有スル帆船	十 圓	三百噸以上五百噸以下
	汽船及機關有スル帆船	十五 圓	五百噸以上一千噸以下
汽船及機關有スル帆船	汽船及機關有スル帆船	二十 圓	一千噸以上二千噸以下
	汽船及機關有スル帆船	二十五 圓	二千噸以上三千噸以下
汽船及機關有スル帆船	汽船及機關有スル帆船	三十 圓	三千噸以上四千噸以下
	汽船及機關有スル帆船	四十 圓	四千噸以上五千噸以下
汽船及機關有スル帆船	汽船及機關有スル帆船	五十 圓	五千噸以上六千噸以下
	汽船及機關有スル帆船	六十 圓	六千噸以上八千噸以下
汽船及機關有スル帆船	汽船及機關有スル帆船	七十 圓	八千噸以上一萬噸以下
	汽船及機關有スル帆船	八十 圓	一萬噸以上

備 考

- 一、測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定スル手数料ヲ納付スヘシ
- 二、第五十條ノ三第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手数料ヲ納付スヘシ
- 三、長二十メートル未満ノ船舶ノ新規測度又ハ全部改測ヲ受ケタルトキハ其手数料ハ本表ニ規定スル金額ノ十分ノ七トス

第一號書式

四、外國ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ其ノ手数料ハ本表及前各號ノ規定ニヨリ算出シタル金額ノ四倍トス

船舶積量測度申請書

汽(帆)船何丸

- 一、船籍港 何府縣何郡市何町村
 - 二、積量 總噸數約何噸
 - 三、造船地 何府縣何郡市何町村
 - 四、造船者 何某又ハ何會社
 - 五、進水ノ年月 何年 何月
 - 六、原名 何々
 - 七、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分 何府縣何郡市何町村何番地 何某又ハ何會社
 - 八、測度ヲ受ケントスル場所 某所
- 右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付積量測度關係書類何通相添此段及申請候也
- 年月日 住 所 何 某印

備考

- 一、船名ニハ振假名ヲ附記スヘシ
- 二、郡市町村名、氏名及名稱ニハ讀方ノ明瞭ナル場合ノ外振假名ヲ附記スヘシ
- 三、外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

第二號書式

船舶件名書

汽(帆)船何丸

- 一、船質 鋼木等
 - 二、帆船ノ帆裝 三檔バーク、二檔トツプスルスクーナー、二檔スクーナー、一檔スループ等
 - 三、總噸數 何噸何々
 - 四、純噸數 何噸何々
 - 五、機關ノ種類及數 往復動汽機・タービン汽機・發動機又ハ電動機何箇
 - 六、推進器ノ種類及數 外車又ハ螺旋推進器何箇
 - 七、進水ノ年月 何年 何月
- 右年月日某所ニ於テ臨檢シタル處前記ノ通ニ有之候也
- 所屬官廳 氏 名印

備考

- 一、進水ノ年月ノ項ニハ外國ニ於テ製造シタル船舶ニ付テハ西曆ニ依リ記載スヘシ
- 二、石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ヲ石數船改測規則ニヨリ改測シタル場合ニ於テハ其件名書ノ末尾ニ「昭和六年法律第六號ニ依リ改測ス」ト記載スヘシ



書 證 籍 國 船 船

番 號	信 號 符 字	種 類	船 籍 港	船 質	帆 船 ノ 帆 裝	機 關 ノ 種 類 及 數	推 進 器 ノ 種 類 及 數	造 船 地	船 名	造 船 者	進 水 ノ 年 月	所 有 者	前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス	
													年 月 日	日本帝國
													管海官廳名印	

ル 削 ヲ 丙 式 書 號 三 第



書 證 籍 國 船 船

番 號	信 號 符 字	種 類	船 籍 港	船 質	帆 船 ノ 帆 裝	機 關 ノ 種 類 及 數	推 進 器 ノ 種 類 及 數	造 船 地	造 船 者	進 水 ノ 年 月	船 名	前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス	
												年 月 日	日本帝國
													管海官廳名印

第三號書式甲

(船法施行第十七條ノ二第一項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ)

縦二十一センチメートル
横三十七センチメートル

第四號書式

假船國籍證書

種 類	船 籍 港	船 質	帆 船 裝 ノ	帆 船 裝 ノ	機 關 ノ	推 進 器 ノ	種 類 及 數	造 船 地	船 名	進 水 年 月	所 有 者		積 量		尺 度		
											者	有	純 噸 數	總 噸 數	上 甲 板 上 ニ 於 テ	船 尾 材 ノ 後 面 ニ 至 ル	船 體 最 廣 部 ニ 於 テ
本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ 年 月 日迄効力ヲ 有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到着シタルトキハ直チニ其ノ効力ヲ失フ												日本帝國 管海官廳名印		總噸數 純噸數		上甲板ニ於テ船首材ノ前面ヨ リ船尾材ノ後面ニ至ル長 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外 面ニ至ル幅 肋骨ノ外面ヨ リ中央ニ於テ、龍骨ノ上面ヨ リ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上 面ニ至ル深	

縱十六センチメートル
横廿七センチメートル

第四號書式乙ヲ削ル

第五號書式

假船國籍證書交付申請書

汽(帆)船何丸

- 一、船籍港 何府縣何郡市何町村
 - 二、船質 鋼、木等
 - 三、帆船ノ帆裝 三檔バーク、二檔トツプスルスクイナ一檔スループ等
 - 四、上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長 何メートル何々
 - 五、船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅 何メートル何々
 - 六、長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル 何メートル何々
 - 七、總噸數 何噸何々
 - 八、純噸數 何噸何々
 - 九、機關ノ種類及數 往復動汽機、タービン汽機、發動機又ハ電動機何個
 - 十、推進器ノ種類及數 外車又ハ螺旋推進器何箇
 - 十一、造船地 何府縣何郡市何町村
 - 十二、造船者 何某又ハ何會社
 - 十三、進水ノ年月 年 月
 - 十四、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分 何府縣何郡市何町村何番地
何某又ハ何會社
- 右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付假船國籍證書交付相成度船船法第十五條(又ハ第十六條)及船船法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

年 月 日	住所
管海官廳宛	何 某印

備考

進水ノ年月日ノ項ニハ外國ニ於テ製造シタル船舶ニ付テハ西曆ニ依リ記載スヘシ

第六號書式

航行認可證

汽(帆)船何丸

住所

所有者

何 某

右船舶法施行細則第四條第一項ノ規定ニ依リ何地ヨリ何地マテ航行セシムルコトヲ認可ス此認可ハ何年何月何日限り無効トス

年 月 日

管海官廳名印

備考

船舶カ共有ナルトキハ共有者一人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

附 則

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書ハ昭和九年六月三十日マテ、假船舶國籍證書ハ其證

書ニ記載スル有効期間内其効力ヲ妨ケラル、コトナシ

第三條 積量測定ニ關スル從前ノ規定ニ依リ積量ノ測定ヲ爲シタル船舶ノ登録、國籍證書及假國籍證書ノ交付並標示ニ付テハ昭和九年六月三十日マテ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニ關シテハ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ受ケタルマテ第二十七條ノ二、第五十條又ハ第五十條ノ二ニ規定スル事項ニ付仍從前ノ規定ニ依ル

第五條 從前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ昭和九年六月三十日(無線電信ノ施設ヲ有スル船舶ニ在リテハ昭和八年十二月廿八日)マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船舶原簿ヲ書換ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニシテ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ受ケタルモノニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船舶原簿ヲ書換ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニヨリ船舶國籍證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第六條 本令施行ノ際現ニ登録シタル船舶ノ信號符字ニ付テハ前條第一項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ノ書換交付ヲ受ケタルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第七條 第五條ニヨル船舶國籍證書ノ書換及之ニ基ク英譯書ノ書換並登記ノ申請ニ要スル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テハ手数料ヲ徴收セス

本令施行ノ際登記登録ヲ要セサル船舶カ昭和六年法律第六號施行ノ結果登記登録ヲ要スルモノト爲リタル場合ニ於ケル船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ交付ニ付テハ手数料ヲ徴收セス

第八條 石數船改測ニ依ル積量ノ改測ニ付テハ測度手數料及旅費ヲ徵收セス

船鑑札規則

(明治四十年五月遞信省令第二四號)
(昭和七年四月改正遞信省令第九號)

第一條 總噸數二十噸未滿ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

一、總噸數五噸未滿ノ帆船

二、端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟

大正十四年勅令第三百二十七號(大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令)第一條ノ法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有スルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ管海官廳日本ノ領事館貿易事務官其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測量ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號第一條ノ規定ニヨル領事館ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ
但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニヨリ船舶ノ積量ノ測度ヲナシタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船体外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名(支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名)及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニヨリ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其他久シキニ耐ユル方法ニヨリ高幅共十センチメートル以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字、船鑑札番號ハ亞刺比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之レヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ
第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更
スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ前項ノ場合ニ於テ
ハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添付シテ其
ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區劃變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シ
タルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地
方官廳ニ送付スヘシ

行政區劃、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區劃、名稱又ハ番號ハ
當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合、
又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキ
モノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返
還スヘシ

- 一、船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解散セラレタルトキ
- 二、船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタル時又ハ船舶ノ存否カ六箇月分明ナラサルトキ

三、船舶カ船籍法ノ規定ニ依リ船籍國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタルトキ又ハ本則ノ規定ニ
依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノトナリタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳
ニ返還スヘシ前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノ、所有者ハ管海官廳ニ積量
ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨檢セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ
改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ
違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ二 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ
第一號書式

船鑑札交付申請書

- 一、船種(汽船、帆船ノ別) 船名
- 二、船籍港(當該市町村名)
- 三、進水ノ年月
- 四、尺 度(船ノ長、幅、深)
- 五、機關ノ種類(汽機、發動機、電動機ノ別)
- 六、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分
- 七、測度ヲ受ケントスル場所

八、申請ノ事由（新造外國船購入等）
右船舶新造（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付船鑑札交付相成度此段及申請候也

年 月 日

住 所

氏

名 印

地方官廳宛

第二號書式

船 鑑 札
第 號
住 所
氏 名
汽 船
帆 船
丸
地方官廳名
年月日
烙印

船 籍 港
長 幅
深 度
總 噸 數
純 噸 數
進 水 ノ 年 月
機 關 ノ 種 類

備 考

一、船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區劃ニ付テハ何府縣何郡何町村等ト記載スヘシ

二、船鑑札ノ寸法ハ縱十五センチメートル横十センチメートル厚及木質ハ適宜トス

附 則

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ効力ヲ妨ケラレルコトナシ

第三條 従前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ

第二章 積量測度法

船舶積量測度法

(大正三年三月法律第三十四號
昭和六年三月改正法律第六號)

第一條 船舶ノ積量ハ船舶ノ内法容積ヲ測度シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス

第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニアル甲板ヲ測度甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上各甲板間ノ積量及上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニアルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一、操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

二、機關室、操舵室、賄室及出入口室

三、採光通風ニ要スル場所及便所

四、主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
前項ニ掲クル機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第四條 總積量ヨリ左ニ掲クル場所ノ積量ヲ控除シタルモノヲ純積量トス但シ總積量ニ算入セサル場所ノ積量ハ之ヲ控除セス

一、船員常用室及海圖室

二、荷足水艙

三、機關室

四、操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ使用セラルル場所

五、水夫長倉庫

六、帆船ノ帆庫

七、主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第五條 前二條ニ掲クル場所ノ領域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 純積量ノ算定ニ付機關室ノ積量トシテ總積量ヨリ控除スヘキ積量ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一、螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニアリテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十七

二、前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其四分ノ

三、外車ヲ備フル船舶ニアリテハ機關室ノ積量ニ其二分ノ一ヲ加ヘタルモノ

但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ル

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル積量カ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ積量ヲ總積量ヨリ減シタル積量ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ帆庫ノ積量カ總積量ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條 總積量又ハ純積量ヲ噸(三百五十三分ノ千立方メートル)ヲ以テ表シタルモノヲ夫々總噸數又ハ純噸數トス

第九條 積量測定ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條ノ二 主務大臣ハ長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測定ニ付第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 従前ノ規定ニ依リ測定シタル船舶ノ總噸數又ハ登簿噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測定シタル總噸數又ハ純噸數ト看做ス

第三條 従前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測定ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測スル迄仍従前ノ規定ニ依ル

第四條 他ノ法令中登簿噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條 船舶カ本法施行ノ結果登記登録ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合ニ於チハ登録稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登録ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登

ス場合ニ於チハ登録稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登録ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登

録ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲナス場合亦同シ

第六條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ本法施行ノ結果登記スヘカラサル船舶トナリタルトキト雖モ仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間其ノ事項ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

船舶ニ設定セラレタル質權ハ該船舶カ本法施行ノ結果登記スヘキ船舶トナリタルトキト雖モ其ノ効力ヲ害セラルルコトナシ

勅令第八十一號

昭和六年法律第六號ハ昭和七年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度規程

(大正三年七月遞信省令第十六號 昭和七年四月改正遞信省令第十號)

第一章 總 則

第一條 長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル前項ノ長ハ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板梁上ニ於テ、甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離トス

第一條ノ二 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位

ハ四捨五入スヘシ

分長點又ハ分深點ノ間隔及其ノ三分ノ一並ニ面積、容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第二條 測度甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一、甲板ヲ備フル船舶ニアリテハ中心線ニ於テ測度甲板上ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁々矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ
- 二、甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

第三條 分長點ト稱スルハ測度甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

測 度 甲 板 ノ 長	等 分 數
三十七メートル以下	六
三十七メートル超エ五十五メートル以下	八
五十五メートル超エ六十九メートル以下	十
六十九メートル超ユルモノ	十二

第四條 分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一、甲板ヲ備フル船舶ニアリテハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ二重底内底板肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
 - 二、前號ノ船舶ノ二重底内底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ測度甲板下ノ下面ヨリ内底板迄ト縁板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
 - 三、甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ
- 第五條 分深點ト稱スルハ測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分	
	二重底内底板カ凸 凹ナル時	其ノ他ノ場合
五メートル以下	五	四
五メートルヲ超ユルモノ	七	六

- 副分深點ト稱スルハ二重底内底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ等分シタル點ヲ謂フ
- 第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ船側内張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側内張板ノ内面ト看做ス
- 第七條 遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ
- 遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

- 第八條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外検査官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル
- 第九條 形状正整ナル場所ノ積量數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ内面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ
- 第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形状複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得
- 第十一條 特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ通信大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章 測度甲板下ノ積量及艀端以下ノ積量

- 第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル
- 一、分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下全端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ
 - 二、分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ第五分深點及第六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト幅分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部ヲ加フヘシ

三、分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條 測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル橫截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十四條 船首尾艙ヲ除キ二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ測度甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ測度甲板ノ長ニ充テテ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ノ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ相加フヘシ但シ各區分毎ニ測リタル測度甲板ノ長カ九メートルヲ超エ十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ分長點ヲ定ムヘシ第十五條 鋤鏈溝ヲ有スル淺濶船ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ鋤鏈溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ相加フヘシ第十六條 舷端以下ノ噸數ヲ算定スルニハ測度甲板下ノ積量ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章 測度甲板上ノ積量舷及端以上ノ積量

第十七條 測度甲板上各甲板間ノ積量ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ測度甲板ノ長ノ等分數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ内面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高サヲ乘スヘシ

第十八條 上甲板及舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一、測度甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其他蔽圍シタル場所ニアリテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長サノ六分ノ一ト平均ノ高サトヲ乘スヘシ

二、測度甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條 船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルニハ純積量ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル前項ノ機關室ノ積量ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ積量ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ積量ノ一部トハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區畫シタル場所ノ積量ヲ謂フ

第四章 總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ九十一センチメートル以上高一一二センチメートル以上（緣材ヲ附スルトキハ其ノ高サ六一センチメートル以下）ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場所又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算

入セス但シ旅客ニ供用セラル、場合ハ此ノ限りニアラス

一、遮浪甲板ニ長サ一二二センチメートル以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖
装置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ該口直下ノ兩舷側ニ適當ノ排水口ヲ設ケ且甲板間ニ於テ適當ノ間
隔ニ徑九センチメートル以上ノ排水孔ヲ備フルコト

二、前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ十分ノ一ヨリ少カ
ラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサ
ル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長サトハ測度甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

三、第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニアル横通隔壁ニ

ハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト

四、第一號ノ甲板口ノ縁材ノ高サハ甲板上平均三十センチメートルヲ超ヘサルコト又該口ノ周圍ニ

ハ之ヲ水蜜ニ閉鎖シ得サル様柵欄ヲ設クルコト

第二十二條 艙室トハ厨室及麵麩燒室ヲ謂フ

第二十三條 艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ
總積量ニ算入セス艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五ヲ超ユルトキ
ハ其ノ超過積量ニ限り之ヲ總積量ニ算入ス

第二十四條 飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機「サーモタンク」深海燈及燈塔ニ供用セラルル場
所ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至
第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第二十五條 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ
外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 船員常用室トハ船長ノ専用スル諸室、海員ノ専用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫
洗面室、浴室、病室、藥局、厨室、麵麩燒室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル
場所ヲ謂フ

第二十七條 海圖室トハ海圖信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラル、場所ヲ謂フ

第二十八條 荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適
セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條 荷足水艙ノ積量ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長九メートル以下ナルトキハ
之ヲ二等分シ九メートルヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ積量測度ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ
近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深五メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ五メートルヲ超ユルトキハ之
ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條 機關室ノ積量トハ機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ
加ヘタルモノヲ謂フ船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算

入シタルトキハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス、機關室ノ積量中船舶ノ推進ニ關係ナキ場所所在ルトキハ其ノ積量ヲ機關室ノ積量ヨリ除去スヘシ

第三十一條 機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十二條 螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラルル場所ノ積量ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘スヘシ

第三十三條 機關室內ノ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所ノ積量ヲ算定スルニハ其ノ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十四條 船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ積量カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニアリテハ總積量ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニアリテハ總積量ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條 水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及ヒ索具ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

第三十六條 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ積量ハ總積量ニ應シ左表ニ掲クル控除積量ヲ超ユルトキハ之ヲ該積量ニ止ム但シ二百十三立方メートルヲ超ユルコトヲ得ス

總 積 量	控 除 積 量
四百立方メートル未満	八立方メートル
四百立方メートル以上千四百立方メートル未満	總積量ノ百分ノ二
千四百立方メートル以上二千八百立方メートル未満	二十八立方メートル
二千八百立方メートル以上	總積量ノ百分ノ一

第三十七條 無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機「サーモタンク」及ヒ「コツプアーダム」ニ供用セラルル場所ノ積量ハ純積量算定ニ付キ總積量ヨリ之ヲ控除スヘシ

逓信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第六號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

船舶積量測度心得

(大正三年七月公布大正五年二月改正 昭和七年四月改正逓信省訓令第一號)

第一章 總 則

第一條 本訓令ハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關スル心得ヲ示スモノトス

第一條ノ二 船舶ノ積量ハ登記登録ノ基礎トナリ諸稅手数料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ

第二條 測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條 製造中ノ検査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

第四條 管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

第五條 下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第六條 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

第七條 船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ測度甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ測度甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ

二、甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ測度甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ケナシ甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

三、船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ測度甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ

四、船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ測度甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第八條 船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スルニ重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條 鐵鋼船ノ船底内張板及船内船側内張板ノ厚カ七、五センチメートルヲ超ユルトキハ之ヲ七、五センチメートルト看做シ測ルヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設クル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底内張板ノ横木ノ高ハ之ヲ内張板ノ厚ニ算入ス

第十條 木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス木船ノ梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十一條 船舶積量測度規程第六條第二項ニ掲クル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バツテン」ノ間隔カ三十センチメートル以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ三十センチメートルヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ九十センチメートルヲ超ユルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條 内張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底内底板、肋板、又ハ肋根材ノ上面迄其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距百二十二センチメートルヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條 艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度

スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十四條 分深點カ「ボツス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボツス」ヲ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第十五條 肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條 二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋骨又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ肋骨又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第十七條 二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル内底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ縁板ヨリ縁板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ

二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ノ内底板ニ固著スル肘板ノ内縁ヲ前二項ノ縁板ノ位置ト看做ス

第十八條 船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト縁板トノ高サノ差カ十五センチメートル未滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ灣曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ケナシ

第十九條 上甲板上蔽圍シタル場所及純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形状複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ケナシ

第二十條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲ケタル副汽機トハ蒸氣唧筒及唧筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二十一條 船舶積量測度規程第二十條及第二十一條ニ掲ケル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總積量ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ純積量ヲ算定スルタメ總積量ヨリ控除シタル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二十一條ノ二 修繕又ハ模様替ノタメ積量ニ變更ヲ生スヘキ場合ト雖モ短時間ノ後復舊スヘキコト明ナル場合ニ於テハ積量ニ變更ナキモノト看做スコトヲ得

第二章 測度甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量

第二十二條 船舶積量測度規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一、全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ三十センチメートル以下機關室ノ下部以外ノ二重底ニ十五センチメートル以下ノ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

二、車輛隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋骨ニ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

三、二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽罐室ノ下部ノミニ二重底内底板ヲ張ラサルカ又ハ普通肋骨ヲ有スルトキハ區分測度ヲ爲サシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看做シ測度スヘシ

四、普通肋骨ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋骨ニ高低アルモ區分測度ヲ爲サシテ他ノ部分ト同一ノ高サヲ有スル普通肋骨ヲ有スルモノト看做シ測度スヘシ

五、二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一區畫トシ

テ取扱フヘシ

第二十三條 漁船ノ生洲及浚漂船ノ泥船ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入ス

前項ノ生洲及泥船ニ付テハ區分測度ヲ爲サシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章 測度甲板上ノ積量及舷端上ノ積量

第二十四條 船舶積量測度規程第十七條ニ掲クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第二十五條 上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條 船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニヨリ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端内面ヨリ船尾ノ内面迄測リタルモノヲ後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高サノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ船舶積量測度規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

前二項ノ方法ニ依ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ検査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第二十七條 船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ其

ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章 總積量ニ算入セサル上甲板ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及振止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル堅溝形材ニ挿板ヲナセル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ効力ヲ有スト認メ得ヘキ場所ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十一條ニ掲クル適當ノ排水口トハ高約五十一センチメートル幅約三十八センチメートルノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約十メートルニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラル、場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第三十一條 厨室トハ「ガレー」「スカレリー」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條 上甲板以上ニアル出入口ノミニ供用セラル、場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ掲クル艙口ノ積量トハ暴露甲板ニアル艙口及載炭口ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅一メートル未滿ナル時ハ其ノ積量ハ之ヲ前項ノ艙口ノ積量ニ算入セス圍壁艙口ノ積量ハ暴露甲板以上ニアルモノハ之ヲ艙口ノ積量ニ算入ス遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ積量ヲ算定ス

第三十四條 上甲板上ニアル採光通風ニ要スル場所ノ積量トハ天窗、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ積量ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルーム」「グースネット」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニアル部分ノ積量ハ之ヲ該場所ノ積量ニ算入ス

第三十五條 大型旅客船ニアリテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト其ノ直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ積量ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ積量ニ算入スヘシ

第三十六條 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ積量ノミヲ便所ノ積量トシテ算定スヘシ

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノタメ要スル場所ノ積量ノミヲ操舵室ノ積量トシテ算定スヘシ

第五章 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第三十八條 船員常用室ノ積量ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條 海員ノ事務室並水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獵ノミニ従事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラル、諸室ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス

但シ旅客船ニ非ラサル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船トナリタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量並旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入ス

第四十條 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用キラル、場合ト雖モ之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條 船舶積量測度規程第廿九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第四十二條 機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路、機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

第四十三條 船舶積量測度法第四條ニ掲クル主唧筒トハ冷水排出ニ供用セラル、蒸氣唧筒ヲ謂フ

第四十四條 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラル、場所ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量トシテ取扱フヘシ

第四十五條 船舶積量測度規程第三十條ニ掲クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該

室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽機、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、艙内送風機ニ供用セラル、場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ、淺瀬船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラル、機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

第四十六條 石炭庫及燃料油庫ノ積量ハ機關室ノ積量ニ算入スヘカラス

第四十七條 船舶積量測定規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ検査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

附 則 (昭和七年四月遞信省訓令第一號)

本訓令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス本訓令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測定ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

石數船改測規則

(昭和七年四月遞信省令第十一號)

第一條 昭和六年法律第六號附則第三條ニ掲クル船舶ハ本令施行ノ日ヨリ二年以内ニ其ノ積量ノ改測ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ船舶ノ所有者ハ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ船舶ノ番號、船名、船籍港、積石數改測ノ爲臨檢ヲ受ケムトスル場所及本令ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載シタル改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條 改測ヲ行ヒタル管海官廳カ當該船舶ノ船籍港ヲ管轄セサル場合ニ於テハ該管海官廳ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第四條 前三條ノ規定ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五條 前條ノ船舶ノ改測ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

簡易船舶積量測定規程

(昭和七年四月遞信省令第十二號)

第一條 長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測定ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 船ノ長トハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

第三條 甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ舷側外面ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ船ノ深トハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ

第四條 甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ舷側外面ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

第五條 低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

第六條 一部分ノミニ上甲板ヲ備フル船舶ニアリテハ甲板ナキ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

第七條 前各項ノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニアリテハ船ノ長、幅及深ハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用

シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 長、幅、深及高ヲ測定スルニハ、メートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數、及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第五條 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一、機關室、操舵室、賄室及出入口室

二、採光通風ニ要スル場所及便所

三、長又ハ幅カ一メートル未滿ナル暴露シタル艙口

四、遞信大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第六條 船樓甲板室、其ノ他上甲板上ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高サ百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ供用セラル、場所ハ此ノ限りニ在ラス

第七條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船實ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼 船

〇、六二

木 船

〇、五五

上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

第八條 總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ内小ナルモノヲ控除シタルモノヲ純積量トス

機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ内法ノ平均ノ長、幅及深ヲ相乘スヘシ

第九條 形狀複雑ナル場所ノ積量ハ其場所ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ算定スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ大正三年七月遞信省令第十六號船舶積量測度規程ニ依ルコトヲ得

第三章 船舶安全法

(昭和八年三月 法律第十一號)

船舶安全法

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一、船體
- 二、機關
- 三、帆裝
- 四、排水設備
- 五、操舵、繫船及揚錨ノ設備
- 六、救命及消防ノ設備
- 七、居住設備
- 八、衛生設備
- 九、航海用具
- 十、危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備

十一、荷役其ノ他ノ作業ノ設備

十二、電氣設備

十三、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

一、總噸數五噸未満ノ船舶

二、櫓權ヲ以テ運轉スル船其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル

所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用ス

ル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶

二、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船(十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶)

三、總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於

テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項第三條ノ

船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査

ヲ受クベシ

一、初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ行フ精密ナル檢

查(定期検査)

二、定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査(中間検査)

三、臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査(特殊船舶検査)

四、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査(臨時検査)

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間検査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適

用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ

關シ船舶ノ製造ニ著シタル時ヨリ検査(製造検査)ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ

又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未満ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ

依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令

ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外

船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ

爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第

十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有効期間滿了ス

第十一條 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ第十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムル時ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得第十三條 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミナ航行スル船舶

二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ

三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

第十五條 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ
 - 二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
 - 三 制限汽壓ヲ超エテ汽鐘ヲ使用シタルトキ
 - 四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ
 - 五 満載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ
 - 六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ
 - 七 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
 - 八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ
 - 九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
- 第十九條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十二條 船舶乗組員虛僞ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- トキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ満載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
- 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
- 第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル検査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 第二十五條 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ
- 第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス
- 第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條 危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項並ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定第二十七條ノ規定並ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前條ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ常分ノ内之ヲ適用セズ

- 一 總噸數二十噸未満ノ帆船
- 二 總噸數二十噸未満ノ漁船
- 三 平水區域ノミテ航行スル帆船

第三十三條 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ

用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

一 航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ

二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條 他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路、又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

【參照】

明治六年八月九日第二百九十二號布告ハ危害品船積ノ法則ナリ

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和九年二月一日
勅令第十二號)

船舶安全法施行令

(昭和九年二月一日
勅令第十三號)

第一條 船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第二條 船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條 逕信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

- 一 船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍
- 二 滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍
- 三 船舶ノ從業制限
- 四 船舶検査ノ種類、時期及機關

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
外國船舶検査規則ハ之ヲ廢止ス
船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又
ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法
第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス
日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依
リ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

船舶安全法施行規則

(逕信省令第四號)
昭和九年二月一日

目次

- 第一章 總則
- 第二章 構造及設備
- 第三章 滿載吃水線
- 第四章 無線電信
- 第五章 航行區域
- 第六章 最大搭載人員
- 第七章 制限汽壓
- 第八章 検査ヲ行フ場合
- 第九章 検査申請ノ手續
- 第十章 検査ノ執行
- 第十一章 検査ノ方法
- 第一節 製造検査

船舶安全法施行規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ

各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二節 定期検査

第三節 中間検査

第四節 特殊船検査及臨時検査

第五節 雜則

第十二章 検査ノ準備

第十三章 證書

第十四章 再検査

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立

第十六章 船級協會

第十七章 航海上ノ危險防止

第十八章 雜則

第十九章 罰則

附則

第二條 本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

- 一 専ラ漁獵ニ従事スル船舶
- 二 漁獵ニ従事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
- 三 専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶
- 四 専ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ従事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ従事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ従事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ従事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ従事スル船舶ヲモ包含ス

第四條 本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ

前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ

除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條 本令ノ規定ニ依ル申請、届出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章 構造及設備

第九條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳艇船其ノ他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ従事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 滿載吃水線

第十三條 水先船、専ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ従事スル船舶、漁業ノ取締ニ従事スル

船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一 夏期滿載吃水線
 - 二 冬期滿載吃水線
 - 三 冬期北大西洋滿載吃水線
 - 四 熱帶滿載吃水線
 - 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線
- 帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ
- 一 海水滿載吃水線
 - 二 冬期北大西洋滿載吃水線
 - 三 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

滿載吃水線ノ位置ノ決定並ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス

區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

第十七條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

木材滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一 夏期木材滿載吃水線
- 二 冬期木材滿載吃水線
- 三 冬期北大西洋木材滿載吃水線
- 四 熱帶木材滿載吃水線
- 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

第十八條 船舶ハ平水區域又ハ瀬戸内(和歌山縣海草郡田倉崎ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門崎ヨリ徳島縣板野郡孫崎ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關崎ニ至ル線及福岡縣企救郡門司崎ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域)ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀬戸内外ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域内ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條 船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水

線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限り之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル区域内又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ

二 旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル区域内ノミヲ航行スルモノ

三 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル区域内ノミヲ航行スルモノ

四 無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限り無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一 無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就航スル爲他ヨリ回航スルトキ

二 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リ

タルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ従事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ従事スル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 平水區域
- 二 沿海區域
- 三 近海區域
- 四 遠洋區域

第二十六條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス

第一區 神奈川縣三浦郡千駄崎ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣君津郡富津崎ニ至ル線内

第二區 靜岡縣安倍郡三保崎ヨリ同縣田方郡御濱崎ニ至ル線内

第三區 愛知縣渥美郡伊良湖崎ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ經テ同郡松ヶ鼻ニ至ル線内

第四區 和歌山縣東牟婁郡駒崎ヨリ同郡太地崎ニ至ル線内

第五區 和歌山縣有田郡宮崎ヨリ同縣海草郡田倉崎ヲ經テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江崎燈臺ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線内

第六區 兵庫縣加古郡加古川口ヨリ兵庫縣飾磨郡男鹿島及香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬

- ノ鼻ニ至ル線、愛媛縣温泉郡響山ヨリ山口縣大島郡平郡島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線並ニ同島小山ノ鼻ヨリ同郡揖取崎ニ至ル線内
- 第七區 山口縣熊毛郡島田川ヨリ同縣都濃郡笠戸島火振崎ヲ經テ同縣佐波郡向島翁崎ニ至ル線及同島牛ヶ頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線及同島牛ヶ頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線内
- 第八區 愛媛縣西宇和郡女岬崎ヨリ同縣東宇和郡大崎ヲ經テ同縣北宇和郡赤崎鼻ニ至ル線内
- 第九區 大分縣東國東郡美濃崎ヨリ同縣北海部郡關崎、同郡神無托島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ同郡鶴見崎ニ至ル線内
- 第十區 山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ至ル線並ニ福岡縣遠賀郡沖田崎ヨリ同縣企救郡馬島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線内
- 第十一區 山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至ル線及同島東端ヨリ同縣阿武郡虎ヶ崎ニ至ル線内
- 第十二區 福岡縣糸島郡西浦三崎ヨリ同縣糟屋郡志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十三區 福岡縣糸島郡串崎ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸崎ニ至ル線内
- 第十四區 佐賀縣東松浦郡值賀崎ヨリ同郡向島、長崎縣北松浦郡黒島及同郡青島ヲ經テ同郡津崎ニ至ル線内
- 第十五區 長崎縣上縣郡唐洲崎ヨリ同縣下縣郡郷崎ニ至ル線及同郡折瀬鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線内
- 第十六區 長崎縣北松浦郡大瀬崎ヨリ同郡平戸島魚見崎ニ至ル線及同島坊山崎ヨリ同郡黒島ヲ經テ同郡七郎崎ニ至ル線内

- 第十七區 長崎縣北松浦郡向後崎ヨリ同縣西彼杵郡番所崎ニ至ル線内
- 第十八區 長崎縣西彼杵郡三重崎ヨリ同郡野母崎ニ至ル線内
- 第十九區 長崎縣南高來郡瀬詰崎ヨリ熊本縣天草郡天草下島大島崎ニ至ル線、同島鶴崎ヨリ同郡下須島「ビシヤゴ」瀬ノ鼻ニ至ル線、同島尾崎ヨリ鹿兒島縣出水郡長島大崎ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キタル線内
- 第二十區 鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬郡小根占崎ニ至ル線内
- 第二十一區 鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」崎ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島會津高崎及同郡枝手久島戸倉崎ヲ經テ同郡奄美大島倉木崎ニ至ル線内
- 第二十二區 島根縣知夫郡知夫島帶ヶ崎ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島木樽ヶ崎ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線内
- 第二十三區 島根縣八束郡地藏崎ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線内
- 第二十四區 京都府與謝郡鷺崎ヨリ同縣加佐郡博突崎ニ至ル線内
- 第二十五區 福井縣敦賀郡立石崎ヨリ同郡「テカ」崎ニ至ル線内
- 第二十六區 石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音崎ニ至ル線内
- 第二十七區 青森縣東津輕郡明神崎ヨリ同縣下北郡貝崎ニ至ル線内
- 第二十八區 宮城縣宮城郡花潤崎ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内
- 第二十九區 北海道上磯郡葛登支岬ヨリ同縣田郡函館山大鼻岬ニ至ル線内
- 第三十區 北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同磯谷郡尻別川口ニ至ル線内

- 第三十一區 北海道高島郡高島岬ヨリ同小樽郡神威古潭ニ至ル線内
- 第三十二區 北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黒島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線内
- 第三十三區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線内
- 第三十四區 澎湖廳馬港要港區域外
- 第三十五區 高雄州猫鼻頭ヨリ同州鷺鑾鼻ニ至ル線内
- 第二十七條 沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス
 - 一 北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奧尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甌列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
 - 二 千葉縣安房郡野島崎ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣賀茂郡石室崎ニ至ル線内ノ區域
 - 三 秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣船倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山崎ニ至ル線内ノ區域
 - 四 山口縣豐浦郡觀音崎ヨリ慶尙南道蔚崎ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ慶尙南道古突山半島南東端ニ至ル線内ノ區域
 - 五 北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線内ノ區域
 - 六 東京府野島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
 - 七 鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
 - 八 沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

- 第二十八條 近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス
 - 近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ
 - 第一區 東ハ東經百七十七度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域
 - 第二區 東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度、北ハ同二十七度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及暹羅海灣
 - 第三區 東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域
- 第二十九條 遠洋區域ハ總テノ水面ヲ包含スル區域トス
- 第三十條 管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得
- 第三十一條 管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ近海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ
- 第三十二條 管海官廳總噸數二百噸未満ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ
 - 一 北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間
 - 二 擇捉島沿岸
 - 三 北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間

- 四 青森縣下北郡尻矢崎ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間
- 五 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間
- 六 茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東崎ニ至ル區間
- 七 靜岡縣榛原郡御前崎ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖崎ニ至ル區間

第三十三條 船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミテ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最快速力ヲ以テ二時間以内ニ又平穩ナル季節ニ限り四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十五條 特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十六條 前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十七條 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三 航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ

四 航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ

前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十八條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章 最大搭載人員

第四十條 最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ、旅客、船員及其他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム

旅客、船員及其他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第四十二條 船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十三條 左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

- 一 船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乗人

二 税關吏員、檢疫吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ従事スル者
第四十四條 第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船舶検査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

第四十五條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケベシ

第四十六條 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

一 一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ

二 三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲グベシ

三 臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ
旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

第四十七條 旅客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ
旅客及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

第四十八條 旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章 制限汽壓

第四十九條 制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規程ニ依リ之ヲ定ム

第五十條 制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試驗ヲ執行シテ安全弁ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解放シタルトキ亦同ジ

第五十一條 船長ハ安全弁ノ鍵ヲ船内ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外安全弁ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ
已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全弁ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全弁ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章 検査ヲ行フ場合

第五十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クルモノト爲リタルトキハ定期検査ヲ受クベシ

第五十三條 定期検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十四條 中間検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ其ノ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタル時ヨリ十二月毎ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期検査ヲ受

ケタル時ヨリ二十四月毎ニ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモ之ヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第二百二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 第一百八十八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ船舶ガ第一百八十八條各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ該船舶ノ現状ニ應ジ次回中間検査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

第五十六條 中間検査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條 特殊船舶検査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二 船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三 船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船舶検査ヲ行フ

第五十八條 臨時検査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 第三十六條第一項、第三十七條、第二項、第三十八條、第四十五條、第五十一條第二項、第二百二十二條第三項若ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依ル申請又ハ第四百七十七條ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認めタルトキ

二 修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ滿載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ

三 滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無

線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ依リ區畫滿載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示セントスルトキ

五 管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付検査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ

六 前各號ニ掲グル場合ノ外船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認めタルトキ

七 其ノ他管海官廳ニ於テ検査ヲ行フノ必要アリト認めタルトキ

第五十九條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ繋船ヲ再ビ航行ノ用ニ供セントスル場合ニ於テ繋船期間中ニ中間検査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間検査ヲ、未ダ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時検査ヲ受クベシ

第六十條 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査ヲ受ケタルトキハ中間検査ヲ、臨時検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタルトキハ臨時検査ヲ行ハズ

第六十一條 朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハズ

前項ノ船舶ガ其ノ製造中日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セララルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造検査ヲ行ハザルコトアルベシ

第六十二條 管海官廳ハ船舶検査執行地外ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依ル製造検査ヲ行ハザルコトヲ得

船舶検査執行地外ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造検査

船舶検査執行地外ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造検査

ヲ行ハズ

第六十三條 船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ掲グルモノニ限り船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受クルコトヲ得

一 往復動汽機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

二 タービン汽機 三百軸馬力以上ノモノ

三 發動機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

四 汽罐 受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章 検査申請ノ手續

第六十四條 定期検査、中間検査、特殊船検査又ハ臨時検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

検査申請者ハ船舶ガ初メテ検査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶検査申請書ニ船舶検査手帖ヲ添付スベシ

第六十五條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ左ニ掲グル圖面ヲ添付スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 船體中央横截面圖(縦通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ)
- 二 船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖
- 三 甲板及艙内平面ノ諸材構造配置圖
- 四 甲板平面圖
- 五 船體線圖

- 六 排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ)

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル装置竝ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶検査申請書ニ添付スベシ

- 一 限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縱ノ「メタセンター」ニ至ル高サヲ示ス曲線圖
- 二 限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心(浮泛中心)ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖
- 三 限界線迄ノ横截面積ヲ示ス曲線圖
- 四 可許長曲線圖
- 五 可許長計算表

第六十七條 製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添付スベシ但シ製造検査ニ引續キ定期検査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第六十八條 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請

書ニ當該船級協會ノ検査ニ關スル證明書ヲ添付スベシ

第六十九條 製造検査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造検査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕様書並ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添付スベシ

第七十條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關検査申請書(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ機關検査申請書ニ製造仕様書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添付シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條 第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶検査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

第七十二條 第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ検査ヲ受ケントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章 検査ノ執行

第七十三條 検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ

船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條 検査ハ申請ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條 遞信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り

休暇日ト雖モ検査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日検査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條 船舶ノ検査ヲ行フトキハ検査事項ニ應ジ船長又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アル

トキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ掲グル者ノ乗組マザル船舶ノ検査、製造検査又ハ船舶用機關ノ検査ヲ行フトキハ検査申請者ハ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ

第七十七條 前條ニ依リ検査ニ立會ヒタル者ハ検査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閲ニ供スベシ

第七十八條 検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ検査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條 管海官廳ハ検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條 検査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書(第四號書式)ヲ検査申請者ニ交付ス

検査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭

ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ検査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條 管海官廳定期検査、中間検査、特殊船舶検査又ハ臨時検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閲スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳

ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶検査手帖ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料竝ニ工事ニ付検査ヲ行フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖面ニ依リ設計ニ付検査ヲ受ク且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付検査ヲ受クベシ

一 船體

(一) 龍骨ヲ据附クルトキ竝ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ

(二) 肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ

(三) 内龍骨、縦通材及梁ヲ取附ケントスルトキ

(四) 甲板及外板ヲ敷張リタルトキ

(五) 水壓試験ヲ執行スルトキ

(六) 外板ヲ張り了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ

(七) 船體完成シタルトキ

(八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

二 機關

(一) 諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

(二) 發動機ノ汽槽又ハ汽罐ニ使用スル鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ

(三) 發動機ノ汽槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲線、鍛接又ハ熔接シタルトキ

(四) 發動機ノ汽槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ銼孔ヲ仕上ゲタルトキ

(五) 汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水器ノ仕上ヲ了リタルトキ

(六) 汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器、復水器、「ポンプ」又ハ減速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ

(七) 水壓試験ヲ執行スルトキ

(八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

前項第一號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進

十五	油槽	頂板上二・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力 但シ強壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍
十四	鍛接合又ハ銲接合ノ氣槽	制限壓力ノ二倍
十三	銲接合又ハ無接合ノ氣槽	制限壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置	常用最大壓力ノ二倍
十一	壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍
十	潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍
九	蒸氣過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管	常用最大汽壓ノ二倍
七	前欄ニ掲グルモノヲ除キ機軸室ニ在ル油管	每平方糎一疋
六	噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管竝ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具	常用最大壓力ノ二倍及每平方糎二・八疋ノ中大ナル壓力
五	復水器ノ管取附部	復水器ノ頂部上二米ノ水高壓力ニ相當スル壓力
四	正給水管及副給水管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
三	主汽管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍

ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節 定期検査

第八十六條 定期検査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル検査ヲ行フ

- 一 船體及ビ機關
- 二 設備及屬具
- 三 滿載吃水線
- 四 無線電信施設

第八十七條 船體ニ關スル定期検査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試験、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試験竝ニ水密戸ノ閉閉裝置、載貨門、載炭門、艙窓及上甲板ノ諸開口ノ閉鎖裝置ノ效力試験ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試験ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試験ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ他管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試験ヲ省略スルコトヲ得

欄	種	別	試	驗	壓	力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍以下ナルトキハ其ノ二倍壓力ノ每平方糎七疋ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎三・五疋ヲ加ヘタル壓力				
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎三・五疋ヲ加ヘタル壓力				

第八十九條 定期検査ニ於テハ左ノ設備及器具ニ付效力試験ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 排水装置
- 二 消防装置
- 三 操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ装置
- 四 羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
- 五 端艇揚卸装置
- 六 汽笛又ハ汽角
- 七 信號器
- 八 端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
- 九 照明装置

第九十條 定期検査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得前項ノ規定ニ拘ハラズ總噸數五十噸未満ノ木船ニ付テハ据船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル状態ニ於テ定期検査ヲ行フコトヲ得

第九十一條 汽船ノ第一回定期検査ニ於テハ速力試験ヲ執行ス
 汽船ノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ前回速力試験執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試験ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條 管海官廳船舶ノ定期検査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現状ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ従事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

資格	第一級船		第二級船		第三級船		第四級船	
	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船
長サ(米)	六〇以上	二五以上	二〇以上	三〇以上	無制限	二〇以上	無制限	無制限
最強速力(一時間ニ付)	一〇海里以上		八海里以上			六海里以上		無制限

甲板ヲ有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ
 船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現状ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコト

ヲ得

第三節 中間検査

第九十三條 中間検査ニ於テハ第八十六條各號ニ掲グル事項ニ付簡易ナル検査ヲ行フ
管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期検査ニ準ジ中間検査ヲ行フコトヲ得検査
申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキ亦同ジ
第九十四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間検査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ其ノ
船底、舵及推進器ヲ検査ス

一 湖川ノミテ航行スル船舶

二 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未満ノモノ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項各號ニ掲グル船舶ノ中間検査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入渠又ハ上架セシ
ムルコトヲ得

第四節 特殊船舶検査及臨時検査

第九十五條 特殊船舶検査ニ於テハ第五十七條ニ掲グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衛生、救命及消防ノ
設備其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ検査ス

第九十六條 臨時検査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應ジ管海官廳ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付檢
査ヲ行フ

第五節 雜則

第九十七條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ付テハ製造中検査ナルカ又ハ

出來上リ検査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造検査又ハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 定期検査ニ於テハ前回ノ中間検査又ハ其ノ後ノ検査ニ於テ定期検査ニ準ジ検査ヲ行ヒタ
ル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル検査ヲ省略スルコトヲ得

中間検査ニ於テハ其ノ以前六月以内ニ中間検査ニ準ジ検査ヲ執行シタル事項ニ付テハ管海官廳ノ見
込ニ依リ其ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條 同形ノ汽機又ハ發動機ニ依リ推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關スル定期検査ニ
於テハ機關ノ年齢、現狀、製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタル
モノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌
スルコトヲ得

十二月毎ニ中間検査ヲ受ケベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規
定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齢、現狀等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ
差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

第一百條 製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ
受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ検査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外
既ニ検査ヲ受ケタル事項ノ検査ヲ省略ス

第一百一條 定期検査又ハ中間検査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取り
検査ヲ行フ但シ湖川ノミテ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル未満ノ船舶ニ付テハ
管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

一 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一種螺旋軸ニシテ前回拔取りテ検査シタル後三年ヲ經タルト

キ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ

一 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回抜取りテ検査シタル後二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ

前項ニ依リ螺旋軸ヲ抜取り検査スベキ場合ト雖モ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ検査ヲ行フ爲臨時検査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ抜取り猶豫スルコトヲ得

第二百二條 管海官廳検査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試験若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

第十二章 検査ノ準備

第二百三條 検査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ検査ノ準備ヲ爲スベシ

第二百四條 船體ニ關スル定期検査ノ準備ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 第一種準備
- 二 第二種準備
- 三 第三種準備

第二百五條 第一回定期検査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未滿ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期検査又ハ第三種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テ

ハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第三種準備ヲ爲スベシ

進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

第六百六條 第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 船體ノ内外部適當ノ場所ニ足場ヲ設ケルコト
- 二 石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固著セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又洩水道覆板及通風路覆板ハ悉ク取除ク泥芥箱ヲ開キ洩水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト
- 三 主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖廚、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ洩水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通ジテ掃除スルコト
- 四 水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 五 入渠又ハ上架シタル船舶ハ舵ヲ扛擧又ハ取外シ舵針及壹金等ヲ検査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、填隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムルコト
- 六 鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板ヲ一條宛取離スコト
木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板

- 一條宛取離シ且船内ニ防熱装置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
 - 七 木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト
 - 木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト
 - 八 木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
 - 九 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト
 - 十 船首尾艙ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
 - 十一 二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト
 - 十二 第八十七條ニ掲グル水密試驗ノ準備ヲ爲スコト
 - 十三 滿載吃水線ノ標示ヲ検査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト
- 第百七條 第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ
- 一 鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト
 - 木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト
 - 二 木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
 - 三 二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 第百八條 第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ
- 一 鋼船ニ於テハ船内内張板ノ大部分ヲ取離シ且船内ニ防熱装置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
 - 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船船ノ長サノ五分ノ一間内張板ノ半數ヲ取離スコト
 - 二 石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト
 - 三 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取離スコト
 - 四 鋼船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ錆落スルコト
 - 五 鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

- 六 鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ検査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト
- 七 深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 八 木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九 櫓及斜櫓ノ楔ヲ拔取ルコト但シ櫓又ハ斜櫓ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條

機關ニ關スル定期検査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一 往復動汽機

(一) 「ピストン」及滑弁ヲ取出スコト

(二) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二 「タービン」汽機

「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛擧スルコト

三 發動機

(一) 「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ検査シ得ル様解放スルコト

(二) 氣筒蓋附屬ノ諸弁ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト

(三) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

四 消音器ヲ掃除スルコト

消音器ヲ掃除スルコト

(一) 各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト

(二) 船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル様爲シ置クコト

五 減速裝置

(一) 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル様爲シ置クコト

(二) 齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト

(三) 液體ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト

六 汽罐

(一) 罐内ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ充分掃除スルコト

(二) 火床棧ヲ取出スコト

(三) 煙室扉ヲ開キ置クコト

(四) 安全弁、塞汽弁、給水制限弁及放水弁ノ弁匣ヲ開キ置クコト

七 給水裝置

(一) 給水「ポンプ」ノ「ブランチヤー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ置クコト

(二) 給水濾器及給水加熱器ヲ開キ置クコト

八 復水裝置

(一) 復水器蓋ヲ開キ置クコト

(二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト

九 吸水、排水及冷却ノ裝置

(一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」ヲ開キ置クコト

(二) 浚水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「ブランチヤー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ置クコト

「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト

(三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

(四) 油清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト

十 潤滑油裝置

潤滑油「ポンプ」及其ノ弁匣並ニ油濾器ヲ開キ置クコト

十一 空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」

(一) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト

(二) 氣槽ノ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

(三) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ弁匣ヲ開キ置クコト

十二 油槽

油ヲ排出シ入孔又ハ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

十三 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十四 水壓試驗

第八十八條ニ掲グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十五 機關備品

適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄り易キ場所ニ整備シ置クコト

第一百十條 設備及屬具ニ關スル定期検査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 屬具中取離サザレバ検査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ機具、手用塗

水「ポンプ」並ニ艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取揃ヘ置キ錨鎖、索、船燈、信號器、救命器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト

二 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト

三 帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト

四 第八十九條ニ掲グル效力試験ノ準備ヲ爲スコト

五 操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト

六 應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉閉裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放スルコト

第一百十一條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十二條 中間検査ニ於テハ第六條第五號及第一百十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ機關ヲ備フル船舶ノ中間検査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ

一 往復動汽機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑弁匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二 「タービン」汽機

「タービン」筒ノ上半ヲ扛舉シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

三 發動機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシノ得ル様爲シ置クコト

四 推進器及推進軸系

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

五 減速装置

各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ亘リ検査シ得ル様爲シ置クコト

六 汽罐

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ

七 吸水及排水ノ装置

最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」竝ニ浚水「ポンプ」ノ蓋及弁匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

八 潤滑油装置

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重装置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

九 空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」

空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋竝ニ弁匣ヲ開キ置クコト但シ二箇以上ヲ備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

十 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十一 機關備品

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

第一百十三條 特殊船舶検査及臨時検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十四條 船舶用機關ノ出來上リ検査ニ於テハ第九條ニ準ジ當該機關ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

スベシ

第一百十五條 管海官廳ハ前十條ニ規定スル検査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齢、構造、前検査ノ成績

又ハ現狀ニ依リ適當ニ増減セシムルコトヲ得

第一百十六條 検査申請者検査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第十三章 證書

第一百十七條 船舶検査證書ヲ分チテ甲種船舶検査證書(第五號書式)、乙種船舶検査證書(第六號書式)

及漁船検査證書(第七號書式)ノ三種トス

甲種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶、乙種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要

セザル船舶ニ、漁船検査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス

第一百十八條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書ノ有効期間ハ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但

シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未満ノ帆船

二 旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未満ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモ

第百十九條 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條 特殊船舶検査證書ヲ分チテ甲種特殊船舶検査證書(第八號書式)、乙種特殊船舶検査證書(第九號書式)、丙種特殊船舶検査證書(第十號書式)及漁船特殊船舶検査證書(第十一號書式)ノ四種トス

甲種特殊船舶検査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船舶検査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船舶検査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊船舶検査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船舶検査證書ノ有効期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム
臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限り前項ノ有効期間ハ二航海以上ニ互リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十一條 合格證明書(第十二號書式)ハ製造検査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶川機關ニ之ヲ交付ス

第百二十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

- 一 船舶安全法施行地外ニ於テ船舶検査證書ノ有効期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地内ノ目的港迄回航スルトキ
- 二 船舶安全法施行地ニ在ル船舶ガ船舶検査證書ノ有効期間滿了シ又ハ航海中其ノ有効期間滿了ス

ベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ検査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地内ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ滞遲ナク其ノ事實ヲ届出ヅベシ第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表並ニ次回定期検査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶検査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十三條 第五十三條ノ規定ニ依リ定期検査ヲ行ヒタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ滿了シタルモノト看做ス

第百二十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶検査證書及特殊船舶検査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

- 一 船舶ニ付検査ヲ受クルトキ
- 二 繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第百二十五條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添へ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第二百二十六條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶検査手帖ヲ添へ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供スベシ

第二百二十七條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 船舶ガ滅失若ハ沈没シ又ハ解撤セラレタルトキ

二 船舶ガ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三 船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ

第二百二十八條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク特殊船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書ヲ返還シタルトキ

二 船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ

三 特殊船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ

第二百二十九條 船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

第三百十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶検査證書舊特殊船舶検査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ

一 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

二 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第三百十一條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第三百十二條 船長ハ船舶検査證書、特殊船舶検査證書及回航認可證書ヲ船内ノ見易キ場所ニ掲ケ置クベシ

第三百十三條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

第三百十四條 前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ但シ第三百十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三百十五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三 船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ

四 繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十六條 前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事官又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十七條 第三十七條第二項又ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書(第十三號書式)ヲ交付ス

第三百三十八條 回航認可證書ノ有效期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム
船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三百二十五條第一項、第二百二十七條及第三百三十條第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有效期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百四十條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限り申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

第十四章 再検査

第四百一十一條 船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再検査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

第四百一十二條 逡信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

逡信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ検査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

第四百一十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ逡信大臣ノ指命シタル者が再検査ヲ結了シタル場合ニ於テ逡信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再検査ノ申請者ハ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ逡信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立

第四百一十四條 船舶乗組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀
二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顛末

第四百一十五條 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶検査手帖ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滞ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第四百一十六條 船舶ノ發航直前ニ於テ第四百一十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコト

ヲ得

第四百十七條 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス
管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章 船級協會

第四百十八條 船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ從事スル爲メ逓信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第四百十九條 船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

一 主タル事務所並ニ出張所ノ名稱及所在地

二 役員ノ氏名

三 檢査員ノ氏名及履歴

四 定款又ハ寄附行爲

五 船級登錄及檢査ニ關スル規定

六 手数料及旅費ニ關スル規定

第四百十條 逓信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)檢査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クベシ
前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ逓信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第五百十一條 船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶檢査ヲ行ヒタルトキハ遲滞ナク當該檢査報告書、乾舷計算表及該檢査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本並ニ檢査依頼者ヨリ差出シタル圖面ヲ逓

信大臣ニ提出スベシ

第五百十二條 逓信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第五百十三條 船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ關スル報告書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第五百十四條 逓信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章 航海上ノ危險防止

第五百十五條 本章中第五百十六條乃至第六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第五百十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲メ特ニ之ヲ乗組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 定員四十八人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人
- 二 定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人

- 三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人
 - 四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人
- 前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム
- 船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ
- 船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乘組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ
- 船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ
- 船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲メ甲板部職員ヲ指定シ置クベシ
- 救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
- 第百五十七條 船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ
- 一 水密戸、弁等ノ閉鎖
 - 二 救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝
 - 三 端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方
 - 四 前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
 - 五 旅客ノ召集
 - 六 火災ノ消防

- 召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ
- 一 旅客ニ警報スルコト
 - 二 旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト
 - 三 旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト
 - 四 通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト
- 召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲メ一定ノ信號ヲ記載スベシ
- 第百五十八條 船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ズルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ
- 第百五十九條 機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ
- 前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ様之ヲ取附クベシ
- 第百六十條 船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル様常ニ準備シ置クベシ
- 第百六十一條 船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下縁ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ
- 船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中之ヲ開放スベカラズ

第六十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ
前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル様必要ナル處置ヲ爲スベシ

第六十三條 船長ハ發航前航行中近寄り難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ジベシ
船長ハ發航前境界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第六十四條 灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ限界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還弁及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

第六十五條 船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ毎週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ
端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第六十六條 船長ハ水密戸、舷窓、弁竝ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ毎週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クとも毎週一回之ヲ行フベシ但シ主横置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中閉鎖スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器竝ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル弁ハ航海中少クとも毎週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第六十七條 前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル様且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セララル様之ヲ行フベシ

第六十八條 船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ
旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス
前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第六十九條 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第七十條 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ

第七十一條 流水、委棄物、熱帶暴風雨(「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクローン」)及之ト同様に性質ヲ有スルモノ其ノ他航海ニ直接ノ危険ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ
前項ノ通報ハ別ニ告示スル様式ニ依ルベシ

第七十二條 無線電信ヲ施設シタル船舶全強風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第七十三條 船舶ハ重大且急迫ノ危険ニ陥リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限り緊急信號及遭難信號ヲ

使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ緊急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ
 緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第七十四條 船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限りノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ限り協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第七十五條 北大西洋橫斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ探ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章 雜則

第七十六條 國際航海ニ従事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ

船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ

一 第七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由

二 第七十八條、第七十九條、第六十一條又ハ第六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密艙番戶、取外シ得ル板戶、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中閉閉シタルトキハ其ノ日時

三 甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戶ヲ閉閉シタルトキ及第七十九條若ハ第六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戶又ハ水密戶ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上閉閉シタルトキハ其ノ日時

四 第六十六條ニ定ムル水密戶等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷

五 第六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由

六 航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及緊急自働受信機ヲ試驗シタルコト

第七十七條 船舶檢査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ届出ヅベシ

一 入渠又ハ上架セントスルトキ(漁船ノ上架ヲ除ク)
 二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第七十八條 國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ

同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試験ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試験ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試験ハ船舶ノ空艙状態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル状態ニ於テ之ヲ行フベシ

傾斜試験ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ届出ヅベシ

第百七十九條 前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

一 傾斜試験ノ成績

二 空艙状態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置

三 横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖（最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ）

第百八十條 船舶安全法第十二條第一項ノ證票（第十四號書式）ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

第百八十一條 船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル検査手数料ヲ納付スベシ

検査申請者ノ都合ニ依リ検査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ検査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ検査著手後ナルトキハ検査手数料ヲ徴收ス

第百八十二條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶検査手帖ノ再交

付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第百八十三條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

検査手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、検査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手数料額ヲ記載スベシ

前項ニ掲グル事項ノ外臨時検査ヲ受ケタル場合又ハ休暇日ニ於テ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ヲ、船體ノ製造検査ヲ受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造検査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和ヲ、發動機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和及單働式又ハ復働式ノ別ヲ、「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ノミヲ記載スベシ

第百八十四條 船舶検査執行地外ニ於テ管海官廳ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ検査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算ス

第百八十五條 本章ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第十九章 罰則

第百八十六條 船舶所有者又ハ船長第四十六條、第百二十四條、第百三十六條、第百五十六條第一項又ハ第百七十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條 船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條第二項、第八十三條第三項、第二百二十二條第二項、第三百二十二條、第四百四十五條又ハ第五百五十七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第四百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナルニ拘ラズ第四百四十五條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ執ラザリシトキ

附則

第百八十八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八十九條 船舶検査法施行細則、船舶滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施設法施行規則、船舶検査規程、木船検査規程、漁船検査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之ヲ廢止ス

第百九十條 船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ検査ヲ受クル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十一條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶検査法ニ依リ検査申請中ノモノニ付テハ検査ヲ行ハズ

第百九十二條 昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

第百九十三條 船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル検査ハ左ノ各號ニ依ル

一 船舶検査法ニ依リ定メタル特別検査ノ有効期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別検査ヲ行ハザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

二 前項ノ有効期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

三 前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ中間検査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ検査ノ方法及準備ニ付第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶前項ノ検査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十四條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全法第三十五條ニ掲グルモノハ同法ニ依リ検査ヲ受クル迄第百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシメザルコトヲ得

第百九十五條 船舶検査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第九十二條ノ表ニ掲グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限り仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第百九十六條 鋼船ノ船體ニ關シ施設スベキ事項及其ノ標準ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内仍造船規程第一編ノ定ムル所ニ依ル別表第一號

無線電信施設免除區域表

- 一 北海道各港間及樺太各港間ノ區域並ニ北海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル韃靼海灣及「オホツク」海
- 二 山口縣大津郡川尻岬ヨリ慶尙南道釜山ニ至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ經テ同道珍島ニ至ル線内ノ區域
- 三 北緯三十七度以北ノ黃海
- 四 臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ至ル線及高雄州鷺鑾鼻ヨリ香港ニ至ル線内ノ區域
- 五 東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸ヨリ西貢ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經百十度ノ地點、「バラワン」島ノ南端、「バルマス」島（「ミアンガス」）、緯度零度東經百四十度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ「ポートダーウイン」（「チアールズ」岬）ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線、並ニ「チアールズ」岬ヨリ「アシユモア、リーフ」「イースト」島、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸迄引キタル各線内ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル區域
- 六 香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ至ル線、同地點ヨリ正南へ北緯十度ニ至ル線及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海及東京灣
- 七 赤道、西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領域ヲ除キタル區域
- 八 「マダガスカル」島、「レユニオン」島及「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印度洋
- 九 「モロツコ」國「カサブランカ」、「アルジェリア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航路ニ當ル北

- 大西洋及地中海一部
- 十 諾威國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」ニ至ル線ノ東方ニシテ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチック」海及其ノ接續海
 - 十一 亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カリビアン」海
- 備考
第十一ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル
- 別表第二號
検査手數料表

製造検査		船體ノ長サ(米)		體		往汽		復汽		動機	
一隻	ニ付	七圓	一〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
二隻	ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
三隻	ニ付	一五圓	二〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
四隻	ニ付	二〇圓	二五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
五隻	ニ付	二五圓	三〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
六隻	ニ付	三〇圓	三五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
七隻	ニ付	三五圓	四〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
八隻	ニ付	四〇圓	四五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
九隻	ニ付	四五圓	五〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十隻	ニ付	五〇圓	五五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十一隻	ニ付	五五圓	六〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十二隻	ニ付	六〇圓	六五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十三隻	ニ付	六五圓	七〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十四隻	ニ付	七〇圓	七五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十五隻	ニ付	七五圓	八〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十六隻	ニ付	八〇圓	八五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十七隻	ニ付	八五圓	九〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十八隻	ニ付	九〇圓	九五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
十九隻	ニ付	九五圓	一〇〇圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
二十隻	ニ付	一〇〇圓	一〇五圓	二〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓

定期検査	總噸數	推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査	特殊船舶検査	臨時検査 回ニ付	中間検査		定期検査		總噸數
					旅客船 ザルモノ	旅客船 非	旅客船 ザルモノ	旅客船 非	
五圓	二〇噸以上 五〇噸未満	推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査	特殊船舶検査	二圓	四圓	六圓	一〇圓	一五圓	二〇噸 未滿
七圓	一〇〇噸以上 一五〇噸未満				六圓	九圓	一五圓	二〇圓	三〇圓
一〇圓	三〇〇噸以上 五〇〇噸未満	推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査	特殊船舶検査	三圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	一〇〇噸 未滿
一五圓	五〇〇噸以上 一〇〇〇噸未満				一五圓	二〇圓	三〇圓	五〇圓	七〇圓
二五圓	一〇〇〇噸以上 一五〇〇噸未満	推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査	特殊船舶検査	五圓	二五圓	三五圓	四五圓	五五圓	一五〇噸 未滿
	一五〇〇噸以上 二〇〇〇噸未満				三五圓	四五圓	五五圓	八〇圓	一三〇圓
	二〇〇〇噸以上 二五〇〇噸未満	推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査	特殊船舶検査	七圓	四五圓	五五圓	八〇圓	一三〇圓	二〇〇噸 未滿
	二五〇〇噸以上 三〇〇〇噸未満				四五圓	五五圓	八〇圓	一三〇圓	二〇〇噸 未滿

機發動	複動 氣筒ノ徑ノ和(米)	機發動	單働 氣筒ノ徑ノ和(米)	罐	汽 受熱面積(平方 米)	汽機 一箇ニ付	タン 軸馬力	推進機關ヲ有スル船舶ノ検査	
								發動機一箇ニ付	發動機一箇ニ付
一〇圓	未滿 〇・五	五圓	未滿 〇・五	五圓	未滿	一〇圓	未滿	三〇〇	未滿
一五圓	未滿 〇・五	一〇圓	未滿 〇・五	一〇圓	未滿	一五圓	未滿	五〇〇	未滿
二〇圓	未滿 〇・五	一五圓	未滿 〇・五	一五圓	未滿	二〇圓	未滿	一〇〇〇	未滿
二五圓	未滿 〇・五	二〇圓	未滿 〇・五	二〇圓	未滿	二五圓	未滿	一五〇〇	未滿
三〇圓	未滿 〇・五	二五圓	未滿 〇・五	二五圓	未滿	三〇圓	未滿	二〇〇〇	未滿
三五圓	未滿 〇・五	三〇圓	未滿 〇・五	三〇圓	未滿	三五圓	未滿	二五〇〇	未滿
四〇圓	未滿 〇・五	三五圓	未滿 〇・五	四〇圓	未滿	四〇圓	未滿	三〇〇〇	未滿
四五圓	未滿 〇・五	四〇圓	未滿 〇・五	四五圓	未滿	四五圓	未滿	三五〇〇	未滿
五〇圓	未滿 〇・五	四五圓	未滿 〇・五	五〇圓	未滿	五〇圓	未滿	四〇〇〇	未滿
五五圓	未滿 〇・五	五〇圓	未滿 〇・五	五五圓	未滿	五五圓	未滿	四五〇〇	未滿
六〇圓	未滿 〇・五	五五圓	未滿 〇・五	六〇圓	未滿	六〇圓	未滿	五〇〇〇	未滿
六五圓	未滿 〇・五	六〇圓	未滿 〇・五	六五圓	未滿	六五圓	未滿	五五〇〇	未滿
七〇圓	未滿 〇・五	六五圓	未滿 〇・五	七〇圓	未滿	七〇圓	未滿	六〇〇〇	未滿
七五圓	未滿 〇・五	七〇圓	未滿 〇・五	七五圓	未滿	七五圓	未滿	六五〇〇	未滿
八〇圓	未滿 〇・五	七五圓	未滿 〇・五	八〇圓	未滿	八〇圓	未滿	七〇〇〇	未滿
八五圓	未滿 〇・五	八〇圓	未滿 〇・五	八五圓	未滿	八五圓	未滿	七五〇〇	未滿
九〇圓	未滿 〇・五	八五圓	未滿 〇・五	九〇圓	未滿	九〇圓	未滿	八〇〇〇	未滿
九五圓	未滿 〇・五	九〇圓	未滿 〇・五	九五圓	未滿	九五圓	未滿	八五〇〇	未滿
一〇〇圓	未滿 〇・五	九五圓	未滿 〇・五	一〇〇圓	未滿	一〇〇圓	未滿	九〇〇〇	未滿
一〇五圓	未滿 〇・五	一〇〇圓	未滿 〇・五	一〇五圓	未滿	一〇五圓	未滿	九五〇〇	未滿
一一〇圓	未滿 〇・五	一〇五圓	未滿 〇・五	一一〇圓	未滿	一一〇圓	未滿	一〇〇〇〇	未滿
一一五圓	未滿 〇・五	一一〇圓	未滿 〇・五	一一五圓	未滿	一一五圓	未滿	一〇五〇〇	未滿
一二〇圓	未滿 〇・五	一一五圓	未滿 〇・五	一二〇圓	未滿	一二〇圓	未滿	一〇〇〇〇	未滿
一二五圓	未滿 〇・五	一二〇圓	未滿 〇・五	一二五圓	未滿	一二五圓	未滿	一〇五〇〇	未滿
一三〇圓	未滿 〇・五	一二五圓	未滿 〇・五	一三〇圓	未滿	一三〇圓	未滿	一〇〇〇〇	未滿
一三五圓	未滿 〇・五	一二〇圓	未滿 〇・五	一三五圓	未滿	一三五圓	未滿	一〇五〇〇	未滿

機動發働複一			機動發働單一			汽一		
付ニ	筒	復一	付ニ	筒	單一	付ニ	筒	汽一
出來上リ検査	製造中検査	氣筒ノ徑ノ和(米)	出來上リ検査	製造中検査	氣筒ノ徑ノ和(米)	出來上リ検査	製造中検査	受熱面積(平方米)
五圓	一五圓	一〇・五以上 未滿〇上	三圓	一〇圓	一〇・五以上 未滿〇上			五〇 未滿
七圓	二〇圓	一五・五以上 未滿〇上	五圓	一五圓	一五・五以上 未滿〇上	二圓	五圓	
一〇圓	三〇圓	二〇・五以上 未滿〇上	七圓	二〇圓	二〇・五以上 未滿〇上	三圓	一〇圓	一五〇 未滿〇上
一五圓	四五圓	二五・五以上 未滿〇上	一〇圓	三〇圓	二五・五以上 未滿〇上	五圓	一五圓	一五〇 未滿〇上
二〇圓	六五圓	三〇・五以上 未滿〇上	一五圓	四五圓	三〇・五以上 未滿〇上		二〇圓	二〇〇 未滿〇上
三〇圓	九〇圓	四〇・五以上 未滿〇上	二〇圓	六〇圓	四〇・五以上 未滿〇上	七圓	二〇圓	二五〇 未滿〇上
三五圓	一一〇圓	五〇・五以上 未滿〇上	二五圓	七五圓	五〇・五以上 未滿〇上	一〇圓	三〇圓	三〇〇 未滿〇上
四五圓	一三五圓	五〇・五以上	三〇圓	九〇圓	五〇・五以上	一五圓	四五圓	三五〇 以上

機汽ンビータ一			機汽動復往一			臨時検査 回ニ檢付一	中間検査
付ニ	筒	軸馬力	付ニ	筒	汽筒ノ徑ノ和(米)		
出來上リ検査	製造中検査		出來上リ検査	製造中検査			
							二圓
三圓	一〇圓	三〇 未滿〇	三圓	一〇圓	一〇・五 未滿〇		三圓
五圓	一五圓	五〇 未滿〇上	五圓	一五圓	一五・五 未滿〇上		五圓
七圓	二〇圓	一〇〇 未滿〇上	七圓	二〇圓	二〇・五 未滿〇上		七圓
一〇圓	三〇圓	一五〇 未滿〇上	一〇圓	三〇圓	三〇・五 未滿〇上	一圓	一〇圓
一五圓	四五圓	二〇〇 未滿〇上	一五圓	四五圓	四五・五 未滿〇上		
二〇圓	六〇圓	二五〇 未滿〇上	二〇圓	六〇圓	六〇・五 以上	二圓	

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査

船舶ノ總噸數	船舶ノ總噸數
一〇〇噸未満	一〇〇噸以上
二圓	三圓
五〇〇噸以上	二、〇〇〇噸以上
三圓	五圓
二、〇〇〇噸以上	二、〇〇〇噸以上
七圓	

備考

- 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付定期検査ヲ受クルトキハ本表ノ手数料ノ半額トス
- 臨檢回数ハ検査官吏一人一回ノ臨檢ヲ以テ臨檢一回トシ一人一回ノ臨檢時間ガ四時間ヲ超ユル時ハ之ヲ二回トシ算出ス
- 臨時検査ノ検査手数料ガ當該船舶ノ定期検査ノ検査手数料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム
- 休暇日検査ヲ受クルトキハ臨檢一回ニ付前三號ノ規定ニ依リ算出シタル検査手数料ニ其ノ三割ニ相當スル金額ヲ加算ス但シ臨檢一回ノ加算手数料ガ三圓未満ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム
- 船舶安全法施行地外ニ於テ検査ヲ受クルトキハ検査手数料ハ前四號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス
- 船舶安全法施行地ニ於テ執行シタル検査ト雖モ申請ニ依リ其ノ一部ヲ同法施行地外ニ於テ受ケタルトキハ検査手数料ハ前號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

別表第三號

證書・證明書及船舶検査手帖手数料表

- 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書
推進機關ヲ有スル船舶 一圓
- 前號ニ掲グル證書ノ英譯書
推進機關ヲ有スル船舶 四圓
- 合格證明書
推進機關ヲ有セザル船舶 一圓
- 回航認可證書
推進機關ヲ有スル船舶 二圓
- 船舶検査手帖
總噸數百噸以上ノ推進機關ヲ有スル船舶 七圓
總噸數百噸未満ノ推進機關ヲ有スル船舶 五圓
推進機關ヲ有セザル船舶 四圓

第一號書式ノ一

船舶検査申請書

第一號乃至第四號ノ手数料ハ第四百十條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 船籍港
- 四 船舶ノ用途
- 五 航行セントスル航路(漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類)
- 六 無線電信施設ノ有無
- 七 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 八 検査ノ種類及其ノ申請ノ事由

年月日

申請者 氏 名 印

管海官廳宛
備考

- 一 船舶ガ長國際航海若ハ短國際航海ニ從事スルモノナルトキ又ハ第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ第五號ニ附記スベシ
- 二 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスル船舶又ハ滿載吃水線ノ再指定ヲ受ケントス

第一號書式ノ二 (移民船ニ付特殊船舶検査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ)

ル船舶ニ付申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ各號ノ外龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度ヲ附記スベシ

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 航行區域
- 四 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 五 移民又ハ三等旅客ノ員數及之ヲ搭載スル港
- 六 發航港、寄航港、到達港及移民又三等旅客ノ下船港
- 七 出港ノ日時及豫定航海期間
- 八 航行里程
- 九 平均速力
- 十 移民又ハ三等旅客ノ船内ニ於ケル搭載場所

年月日

申請者 氏 名 印

管海官廳宛
備考

第八號ニハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ發航港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ里程ヲ記載スベシ

第一號書式ノ三(第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ)

船舶検査申請書

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 航行區域(漁船ニ在リテハ操業場所)
- 四 臨時ニ搭載スル者ノ種類及員數並ニ之ヲ搭載スル港
- 五 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 六 航行里程
- 七 平均速力
- 八 發航港、寄航港及到達港
- 九 豫定航海期間(漁船ニ在リテハ豫定ノ漁期)
- 十 第四號ニ掲グル者ノ船内ニ於ケル搭載場所

年月日

管海官廳宛

備考

申請者 氏 名 印

第二號書式

製造検査申請書

- 一 船舶ノ種類及資格
- 二 鋼船又ハ木船ノ區別
- 三 船舶ノ長さ及總噸數
- 四 機關ノ種類及數
- 五 實馬力
- 六 制限汽壓
- 七 推進器ノ種類及數
- 八 使用ノ目的
- 九 航行セントスル航路(漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類)
- 十 申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度
- 十一 船體及機關ノ製造所ノ名稱並ニ其ノ所在地
- 十二 起工ノ年月

年月日

申請者 氏 名 印

割印

事記	汽船 丸ニ標示スベキ満載吃水線ノ位置右ノ通指定ス 年 月 日	船ノ長サノ中央ニ於ケル 甲板ノ上面ノ延長ト外 板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲 板ヲ標示スル水平線ノ上縁ニ 至ル垂直距離	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ 上縁ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂 直距離(夏期乾舷)	圓標ノ中心ヨリ熱帶満載吃水 線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ冬期満載吃水 線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ冬期北大洋 洋満載吃水線ニ至ル垂直距離	貨物搭載場所ノ中旅 客室ニ充ツル場所 ノ吃水線ニ至ル垂直距離	當該區 畫滿載 ル水平 線ノ上 縁ヨ リ乾舷 甲板ヲ 標示ス ル垂直 距離	區畫滿載 吃水線 C ₁	區畫滿載 吃水線 C ₂	區畫滿載 吃水線 C ₃	區畫滿載 吃水線 C ₄	區畫滿載 吃水線 C ₅
		方へ 耗	下方へ 耗	上方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗	下方へ 耗

管海官廳印

管海官廳宛

備考

第三號書式

機關検査申請書

- 一 検査ヲ受クベキ機關又ハ其ノ部分ノ名稱及數
- 二 製造番號及製造年月
- 三 主要件名
- 四 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 五 出來上リ検査又ハ製造中検査ノ別

年 月 日

申請者 氏 名 印

管海官廳宛

備考

第三號ニハ往復動汽機ニ在リテハ制限汽壓竝ニ各汽筒ノ徑及行長ヲ「タービン」汽機ニ在リテハ制限汽壓、軸馬力及「タービン」筒ノ數ヲ、發動機ニ在リテハ型式竝ニ氣筒ノ數、徑及行長ヲ、汽罐ニ在リテハ型式、制限汽壓、徑、長サ(又ハ高サ)及受熱面積ヲ記載スベシ

第四號書式

申請者 氏 名

割印

汽船	丸ニ標示スベキ満載吃水線ノ位置右ノ通指定ス	年	月	日	管海官廳印
満載吃水線ニ至ル垂直距離	海水ニ於ケル各種木材満載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水木材	上方へ	耗		
圓標ノ中心ヨリ冬期木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ	耗		
圓標ノ中心ヨリ熱帶木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ熱帶木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	耗		
圓標ノ中心ヨリ夏期木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ夏期木材満載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	耗		

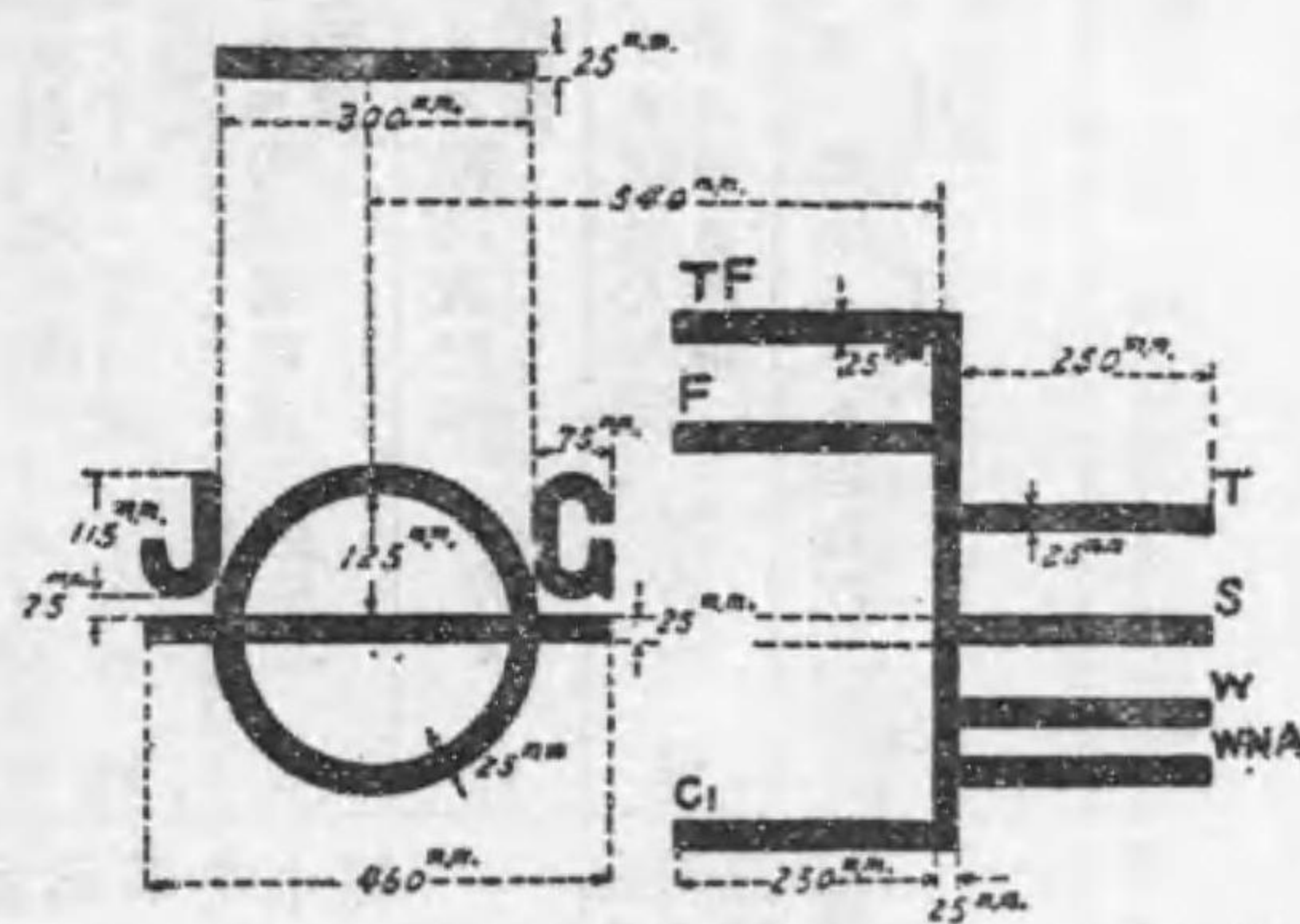
第四號書式ノ二(木材満載吃水線指定ニ用ウルモノ)

申請者 氏名

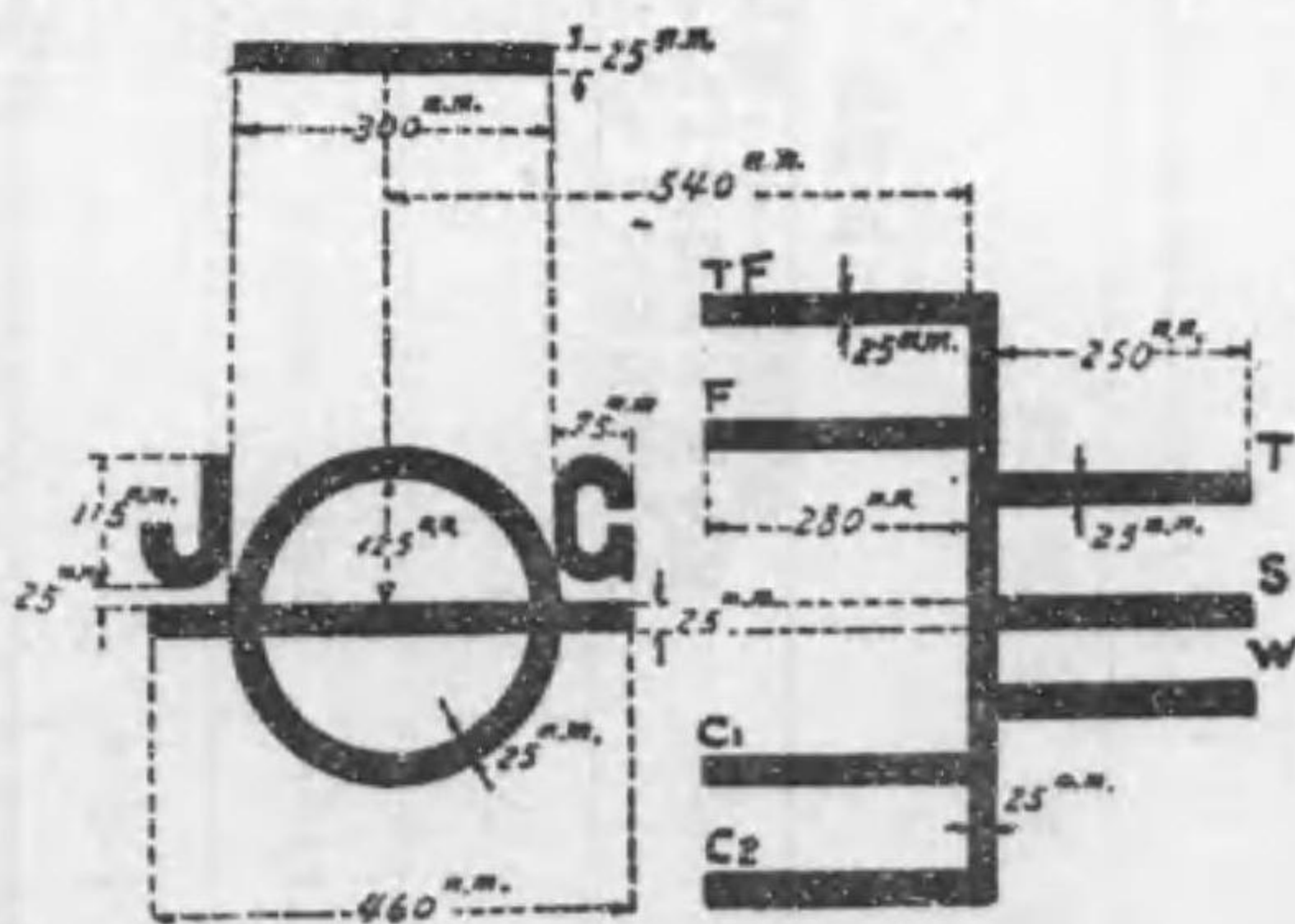
備考

- 一 該當事項ナキ欄ニハ斜線ヲ引クベシ
- 二 木材満載吃水線ヲ標示スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ第四號書式乙ヲ併セ用ウベシ
- 三 船舶満載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板(木甲板アルトキハ木甲板)ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

例示標線水吃載滿 (ス示ヲ例ルケ於ニ舷右)



槽船及槽船ニ非ザル長サ一〇〇・五八
米以下ノ汽船ニシテ遠洋ノ航行區域ヲ
有スルモノ



近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及長サ一〇
〇・五八米ヲ超エ遠洋ノ航行區域ヲ有ス
ル汽船(槽船ヲ除ク)

割印

第四號書式ノ三(帆船ニ用ウルモノ)
第 號

備考

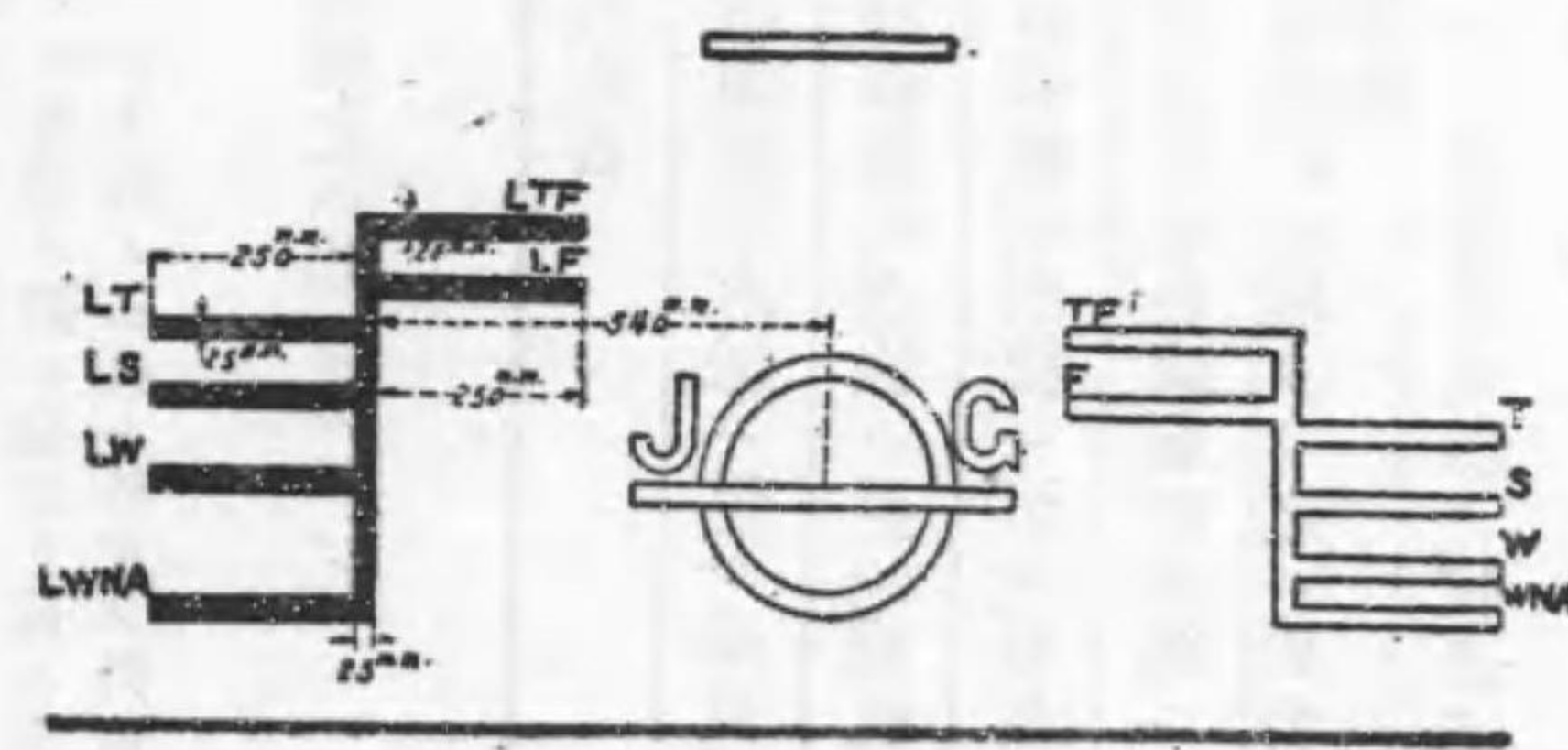
近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

申請者 氏 名

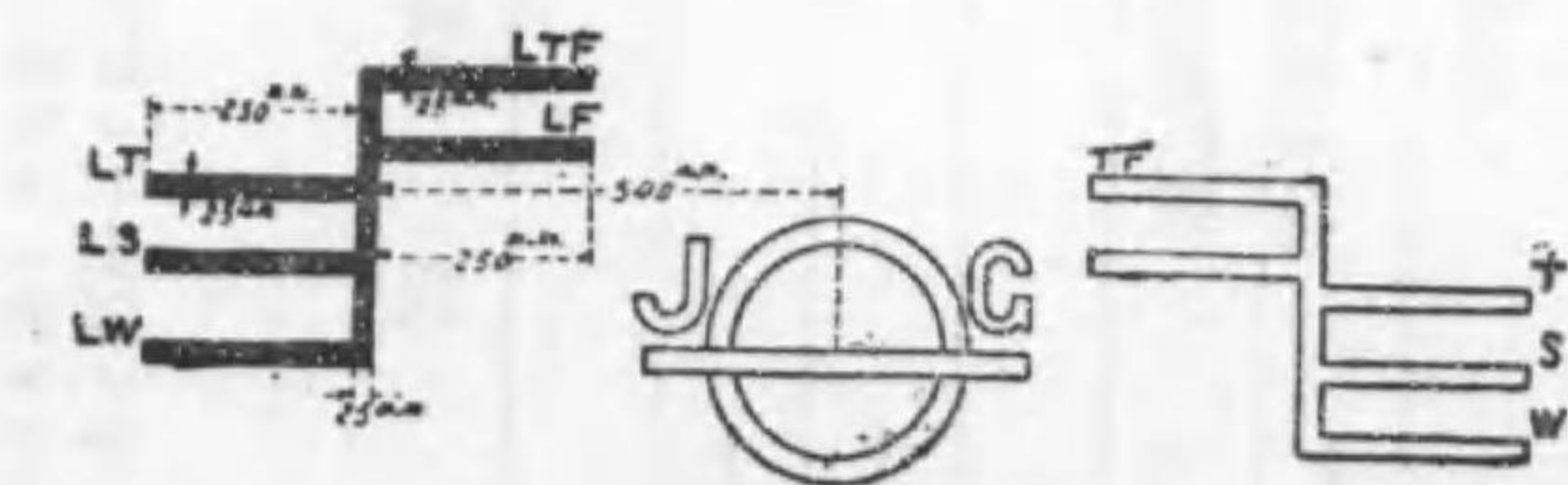
事 記	船舶滿載吃水線指定書			
	帆船	丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス	年 月 日	管海官廳印
	應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	耗	
	海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對 ニ至ル垂直距離	下方へ	耗	
	圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線 標ノ中心ニ至ル垂直距離(海水乾舷)	下方へ	耗	
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ圓 標ノ中心ニ至ル垂直距離	下方へ	耗		
外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上 縁ニ至ル垂直距離	方へ	耗		
船ノ長サノ中央ニ於ケル 甲板ノ ノ上面ノ延長ト				

例示標線水吃載滿材木
(ス示ヲ例ルケ於ニ舷右)

(遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船)



(近海ノ航行區域ヲ有スル汽船)

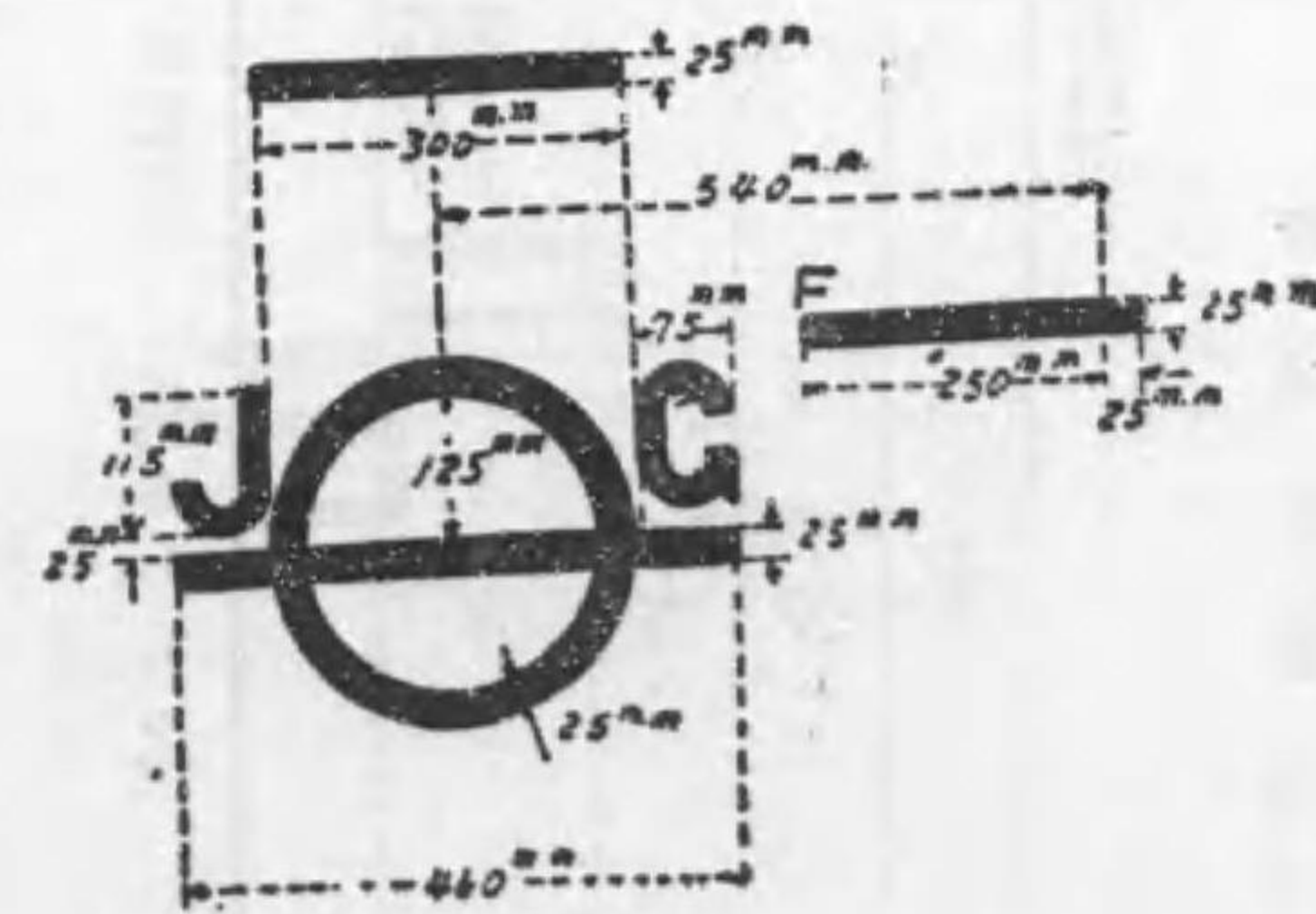
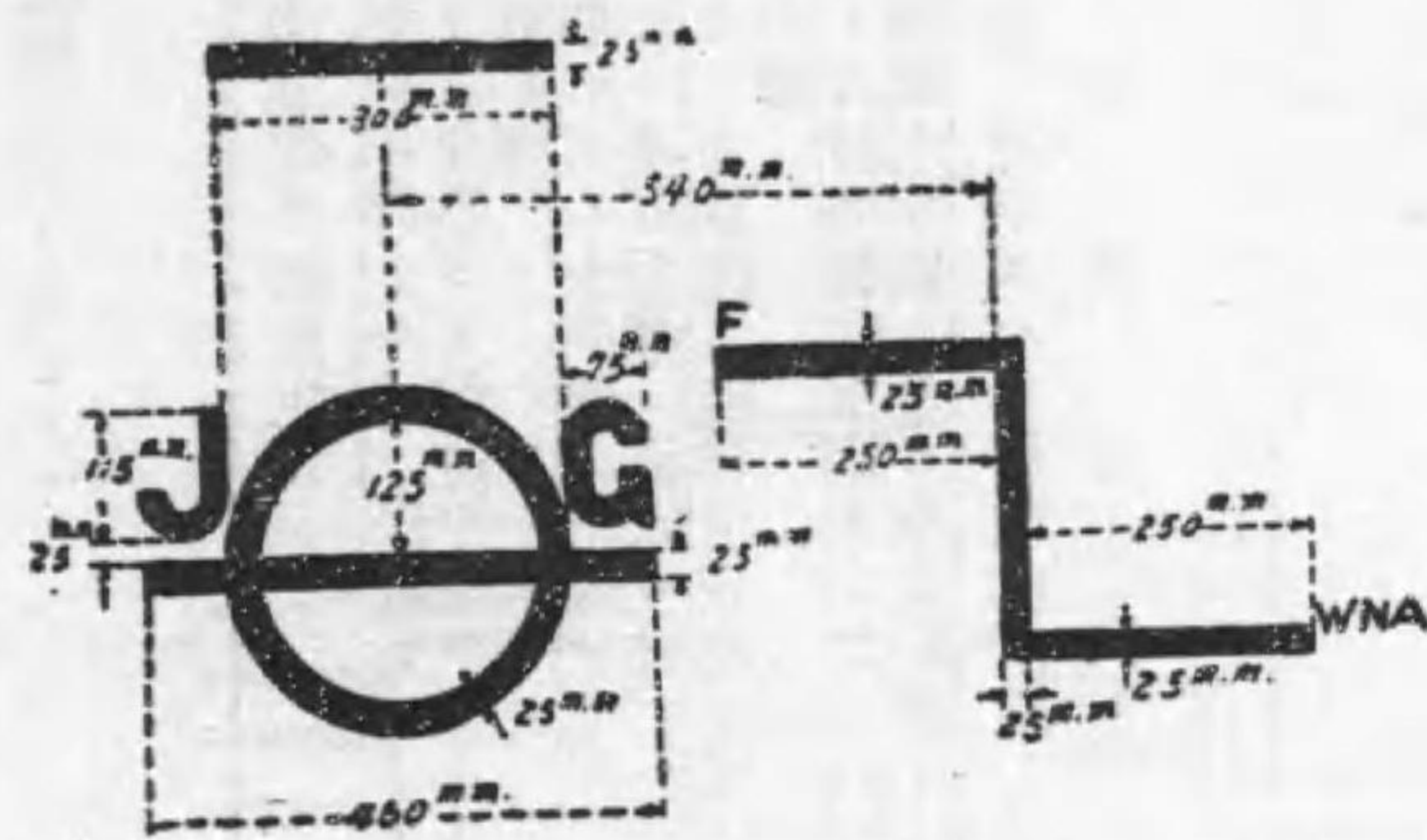


機 種 類		用 途	船 籍 港	信 符 字 號	總 噸 數	船 名	番 號
					噸	船	第
電 信 線	無	合 計	其 他	船 員	搭 客	最 大 旅 客	所 有 者
式	人	人	人	人	人	一 等 旅 客 定 員 二 等 旅 客 定 員 三 等 旅 客 定 員 計	

第五號書式ノ一
號 (木材滿載吃水線ヲ標示セ)
(横四〇纏)

備考
一 近海ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ
二 船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板(木甲板アルトキハ木甲板)ノ上面ノ延長ト外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

例示標線水吃載滿
(ス示ヲ例ルケ於ニ舷右)



(遠洋ノ航行區域ヲ有スル帆船)

(近海ノ航行區域ヲ有スル帆船)

割印

第五號書式ノ二

(木材滿載吃水線ヲ標示スル船船ニ用ウルモノ)

(橫四〇七種)

關汽	機種	用船	船籍港	符信	總噸數	船名	番號
壓限	種類	途ノ		字號		種名	號船
					噸	船	第
						丸	號
端艇	電無	員人載搭大最	所有者				
	信線	合ノ其船	客				
		計者他員	客				
			員				
			客				
			員				
			客				
			員				
隻	式	人	人	人	人	人	人

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

管海官廳印

書證查檢船種甲

線	水	吃	載	滿	效證	區航	馬公	關
應海	離洋	圓水	圓水	圓水	期書	域行	力稱	汽制
水ニ於	滿載吃	線ニ中心	線ニ中心	線ニ中心	有			壓限
スル淡	水線ニ	至ル中心	至ル中心	至ル中心	至自			
水滿載	至ル冬	至ル冬	至ル冬	至ル冬	年			
吃水線	期北	期北	期北	期北	年			
ニ至ル	大西	大西	大西	大西	月			
垂直距	下方	下方	上方	下方	日			
離ニ對	耗	耗	耗	耗	日			
應						備設命救		
						胴救	浮救	救命
						衣命	豐命	器命
								救命
								筏
								端
								艇
								隻
上方	C3	C2	C1					
耗	耗	耗	耗	耗	筒	筒	筒	筒

檢 船 船 種 乙

航 行	馬公 力稱	關 汽制 壓限	機 種類	總 噸數	船 名	番 號
					種 類	第 號
				噸	丸	號
員 人 載 搭 大 最						
合 計	其 他	船 員	旅 客	用 途	船 籍 港	所 有 者
			一 等 旅 客 定 員			
			二 等 旅 客 定 員			
			三 等 旅 客 定 員			
人	人	人	人	人		

第六號書式
(竪二七極
横四〇極)

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス
年 月 日

管 海 官 廳 印

書 證 查 檢 船 船 種 甲

線	水	吃	載	滿	乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平	外 板 ノ 外 面 ト ノ 交 點 ヨ リ 乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 緣	船 ノ 長 サ ノ 中 央 ニ 於 ケ ル 交 點 ヨ リ 乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 緣 ト	航 行 區 域	馬 公 力 稱
距 離	水 線 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	海 水 ニ 於 ケ ル 各 種 木 材 載 吃 水 線 ニ 對 應 ス ル 垂 直	直 距 離	西 洋 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 中 心
	上方へ	上方へ	下方へ	下方へ	下方へ	上方へ	上方へ	上方へ	上方へ
	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗
線 水 吃 載 滿 材 木									
至 ル 垂 直 距 離	海 水 ニ 於 ケ ル 各 種 木 材 載 吃 水 線 ニ 對 應 ス ル 垂 直	直 距 離	西 洋 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直	乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 緣	方へ
	上方へ	下方へ	下方へ	方へ	上方へ	上方へ	上方へ		
	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	筒	筒
								筒	筒
								筒	筒
								筒	筒

第七號書式ノ一
 (滿載吃水線ヲ標示セザ)
 (ル漁船ニ用ウルモノ)
 (豎二七厘)
 (横四〇厘)

書 證 查 檢 船 漁

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	線 水 吃 載 滿		効 證 書 行 期 間 自 至 年 年 月 月 日 日	制 限	從 業			
	應 海 水 線 淡 水 滿 載 吃 水 線 之 對 應	離 載 吃 水 線 之 對 應						
管 海 官 廳 印	上方へ	上方へ	乾 舷 甲 板 標 示 ス ル 水 線 之 對 應	端 艇	電 信 線	無 線	員 人 載 搭 合 計 其 他	人
	上方へ	上方へ	圓 標 吃 水 線 之 對 應	端 艇	電 信 線	無 線	員 人 載 搭 合 計 其 他	人

書 證 查

第七號書式ノ一
 (滿載吃水線ヲ標示ス)
 (ル漁船ニ用ウルモノ)
 (豎二七厘)
 (横四〇厘)

割 印

關 汽 機 總 船 番 船 制 壓 限 種 類 噸 數 名 種 號 船	第 號	船 名	噸 數	符 信 字 號	所 有 者	端 艇	電 信 線	無 線	大 最 馬 公 船 符 信 所 有 者 船 員 力 稱 籍 港 字 號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	効 證 書 行 期 間 自 至 年 年 月 月 日 日	區 域	端 艇	電 信 線	無 線
管 海 官 廳 印					

第九號書式
(豎二七種)
(横三三種)

書證查檢船殊特種甲

割印

第 號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス 年 月 日	效期間	證書有	航 路	總噸數	船名	船種
	至	自				
	年 月 日	年 月 日				
搭 載 人 員				所 有 者	丸 號	
譯 內		員 總				
				人		

管海官廳印

書證查檢船漁

割印

第 號

第八號書式
(豎二七種)
(横三三種)

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス 年 月 日	効期間	證書有	從業限制	關汽制壓	機種類	總噸數	船名	番號	
	至	自							
	年 月 日	年 月 日							
端艇	電無	員人載搭大最	合 計	ノ 其 他	船 員	馬 公 力 稱	船 籍 港	符 信 字 號	所 有 者
隻	式	人	人	人					

管海官廳印

第十一號書式

(豎二七種)
(横三三種)

書證查檢船殊特種丙

割印

第

號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス 年 月 日	效期間	證書有	航 路	總噸數	船 名	船 種
	至	自				
	年	年	甲 板 旅 客	所 有 者		
	月	月			譯 內	員 總
日	日		人			

管海官廳印

第十號書式

(豎二七種)
(横三三種)

書證查檢船殊特種乙

割印

第

號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス 年 月 日	效期間	證書有	航 路	總噸數	船 名	船 種
	至	自				
	年	年	時 臨	所 有 者		
	月	月			譯 內	員 總
日	日		人			

管海官廳印

漁船特殊檢査證書

割印

第

船舶名	噸數	業務種類	操業場所	證書有效期間		搭載人員		歸著定	仕立港	所有者
				自	至	總員	內譯			
船丸	噸			自	至					
船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス				年	月	日	年	月	日	

管海官廳印

第十二號書式ノ一 (船舶ニ用) (堅二七種) (ウルモノ) (横一九種)

第 號

割印

第 號

第十二號書式ノ二 (船舶用機關ニ) (用ウルモノ) (堅二七種) (横一九種)

合格證明書

船舶ノ種類及鋼船又ハ木船ノ區別
製造番號
總噸數
船體ノ主要寸法
船舶ノ用途
機關ノ種類及數
製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
檢査ノ成績

別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶ノ製造檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

刻印

合格證明書

- 一 檢印及檢査番號
- 一 檢査品名及數
- 一 製造中檢査又ハ出來上リ檢査ノ區別
- 一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 一 檢査ノ成績

別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

第十三號書式 (豎二七種 横一九種)

第 號

回航認可證書

刻印

船舶所有者住所

氏名又ハ名稱

右所有(汽)船 丸ハ船舶安全法施行規則第 條第 號ニ該當スルニ因リ (旅客

若ハ貨物ノ搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ禁ゼラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス)

ヨリ 本證書ハ 年 月 日限リ其ノ效力ヲ失フ

年 月 日

管海官廳印

第十四號書式 (豎八・五種 横六種)

第 號

官 氏 名

船舶檢査官吏之證

印

通 信 省

船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件

(逓信省令第五號)
昭和九年二月一日

第一條 左ニ掲グル規定ヲ除クノ外船舶安全法施行規則ハ日本船舶ニ非ザル船舶(以下外國船舶ト稱ス)ニシテ同法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス但シ本令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 製造検査ニ關スル規定

二 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ關スル規定

三 第二百五十五條乃至第七十六條

四 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ第十五章ノ規定

第二條 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スル證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當該證書ガ有效ナリヤ否ヤヲ査閲シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤ否ヤヲ確ムルニ必要ナル検査ヲ行フ

二 前號ニ該當セザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ日本船舶ニ付テハ検査ニ準ジ検査ヲ行フ

第三條 外國船舶ノ積量ハ左ノ各號ニ依ル

一 船舶ガ其ノ所屬地ノ當該官廳ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶検査證書ヲ受有スルトキハ之

ニ記載シタル積量ニ依ル

二 前號ノ證書ヲ受有セザル船舶ニ付テハ船舶積量測定法ニ依リ算定シタル積量ニ依ル

管海官廳ハ帝國政府トノ間ニ船舶積量ニ關スル互認協定ナキ國ニ屬スル船舶ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ船舶積量測定法ニ依リ之ヲ測定スルコトヲ得

附則

第四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 船舶安全法施行規則第九十條、第九十一條、第九十三條及第九十五條ノ規定ハ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グル外國船舶ニ、同規則第九十六條ノ規定ハ同法第十四條各號ニ掲グル外國船舶ニ之ヲ準用ス

第六條 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニシテ同法第三十三條ニ該當スルモノハ本令施行後一年ヲ限り滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第七條 昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル旅客船又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ、昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル船舶ニシテ同條各號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ無線電信施設ニ關シ本令施行後三月ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

第八條 前條ノ船舶ヲ除クノ外船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ其ノ構造、設備、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本令施行後一年ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

船舶設備規程

(逓信省令第六號
昭和九年二月一日)

目次

- 第一編 救命設備
 - 第一章 總則
 - 第二章 端艇
 - 第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量
 - 第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
 - 第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
 - 第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣
 - 第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
 - 第五節 第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
 - 第六節 救命胴衣、救命浮環及救命索發射器
 - 第四章 端艇及救命筏ノ附屬品
 - 第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示
 - 第六章 乘艇裝置
- 第二編 消防設備
 - 第一章 總則

- 第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
- 第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海區域以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
- 第三編 居住及衛生設備
 - 第一章 旅客室
 - 第二章 旅客定員
 - 第三章 旅客ニ關スル設備
 - 第四章 船員室等
 - 第五章 衛生設備
 - 第四編 航海用具等
 - 第一章 錨、錨鎖及索
 - 第二章 操舵設備
 - 第三章 航海用具其ノ他ノ屬具
 - 第五編 特殊貨物ノ積附設備
 - 第一章 火藥庫
 - 第二章 甲板積木材貨物ノ積附
 - 第三章 穀類貨物ノ積附
 - 第六編 電氣設備
 - 第一章 總則
 - 第一節 通則

第二節 機械及器具

第三節 電線、電路及附屬設備

第二章 配線工事

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

附則

船舶設備規程

第一編 救命設備

第一章 總則

第一條 本編ノ規定ノ適用ニ付テハ船舶ヲ分チテ左ノ六種トス

第一種船 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第二種船 沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第三種船 平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第四種船 近海以上ノ區域ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル旅客船

第五種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スルモノ

第六種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有スルモノ

第二條 救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

一 第一級甲型救命艇 内部浮体ノミテ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

二 第一級乙型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

三 第二級甲型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇

四 第二級乙型救命艇 固定水密舷牆又ハ疊込ミ得ル水密舷牆ヲ有スル有甲板救命艇

五 發動機附救命艇 第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第三條 端艇ト稱スルハ救命艇及容積一・四立方メートル以上ノ普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ヲ謂フ

第四條 救命設備トシテ船舶ニ備フベキ救命艇、救命筏、救命浮器、救命浮環、救命胴衣、救命索發射器

救命焰及信號紅焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第二章 端艇

第五條 救命艇ノ容積又ハ面積ノ算定並ニ救命艇、救命筏及救命浮器ノ定員ノ算定ニ付テハ試驗規程

ニ依ル

第六條 發動機附救命艇ハ燃料ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ直ニ使用シ得ル状態ニ置キ且之ヲ迅速ニ水上

ニ卸ス爲ノ適當ナル裝置ヲ備フベシ

第七條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ構造ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條 普通艇ノ容積ハ其ノ外部ニ於テ長サ及幅ヲ測リ長サノ中央ニ於テ内部ノ深サヲ測リ之ヲ相乘

シタルモノノ十分ノ六トス

傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ容積ハ前項ノ長サ、幅及深サヲ相乘シタルモノノ十分ノ七トス

第九條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ定員ハ其ノ容積(立方メートルニテ)ヲ〇・二八三ニテ除シ之ヲ

定ム

第十條 沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ備フル端艇ノ定員ハ第五條又ハ前條ノ規定ニ依ル定員ノ

一・二倍トス

第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量

第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第十一條 第一種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ
管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十二條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ
前項ノ増備救命艇ハ第一項ノ救命艇ノ下ニ一隻宛配置シ尙殘餘アルトキハ其ノ内側ニ配置スベシ

第十三條 長國際航海ニ従事スル第一種船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ救命筏ガ前條第一項ノ救命艇ノ内側ニ配置セララルル増備艇ヨリモ一層迅速且有效ニ利用セラルト認ムルトキハ該増備艇ニ代ヘ救命筏ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ニ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十四條 長國際航海ニ従事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ中一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ

第十五條 長國際航海ニ従事セザル第一種船ニ在リテハ第十二條第二項ノ規定ニ依ル増備艇ニ代ヘ救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ホ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第十七條 第二種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ其ノ組數ヲ同表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十八條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス
前項ノ救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ニ掲グル最小容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ

第十九條 救命艇ノ總容積及端艇鈎ノ組數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ヲ超ユルコトヲ要セズ

第二十條 第十八條ノ規定ニ依ル救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ノ容積ニ達スルモ船舶ノ最大搭載人員ノ百分ノ五十ヲ收容スルニ必要ナル容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ増備スベシ

第二十一條 長サ二五メートル未滿ノ第二種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ救命艇ニ代ヘ端艇鈎ヲ備ヘザル端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得

第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣
第二十二條 湖川港内ノミテ航行スル船舶ヲ除クノ外第三種船ニハ最大搭載人員ノ百分ノ三十ヲ收容スルニ必要ナル端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ備フベシ

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十三條 第四種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セス
管海官廳ニ於テ己ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ハ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第二十四條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス
前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ

前項ノ増備救命艇ハ端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ヘ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第二十五條 長國際航海ニ從事セザル第四種船ニ付テハ第二十三條ノ規定ニ依リ備フベキ端艇鈎ノ組數及前條第二項ノ規定ニ依リ増備スベキ救命艇ハ最大搭載人員ノ百分ノ八十ヲ收容スルニ必要ナルモノ迄、前條第三項但書ノ規定ニ依ル最小容積ハ第一號表(ト)欄ニ掲グルモノ迄之ヲ減ズルコトヲ得

第二十六條 特ニ限定セラレタル區域ヲ航行スル第四種船ニ付管海官廳前三條ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ當該航路及旅客ノ性質ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五節 第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十七條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船ニハ各舷ニ最大搭載人員ヲ收容シ得ルニ足ル總容積ノ第一級救命艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ救命艇ノ總數三隻ナルトキハ中一隻ヲ、三

隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ第一級救命艇ニ非ザル端艇ト爲スコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ第一級救命艇ニ非ザル端艇ヲ備フル場合ニ於テハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル容積ノ二分ノ一以上ノ總容積ヲ有スル第一級救命艇ヲ各舷ニ備フベシ

近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種帆船及沿海ノ航行區域ヲ有スル第五種帆船及沿海ノ航行區域ヲ有スル第五種船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ

第二十八條 長サ二五メートル未滿ノ第五種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ端艇鈎ヲ備フル端艇ニ代ヘ之ヲ備ヘザル端艇、救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ備フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第六節 救命胴衣、救命浮環及救命索發射器

第二十九條 左ノ各號ノ船舶ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ

一 第一種船、第二種船又ハ第四種船

二 遠洋ノ航行區域ヲ有スル第五種船又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船

前項第一號ニ掲グル船舶ニ於テハ小兒ヲ搭載スル爲實際ノ搭載人員ガ船舶ノ最大搭載人員ヲ超ユル場合ニ對シ超過人員ニ相當スル數ノ救命胴衣ヲ増備シ置クベシ

第三十條 旅客船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船ノ長サ(米)	第一種船	第二種船	第三種船	第四種船
	救命浮環 救命焰	救命浮環 救命焰	救命浮環 救命焰	救命浮環 救命焰

六未滿	八	六	四	二	二	六
六一以上	一二	六	六	二	四	八
九一以上	一二	六	六	二	四	一〇
一二二未滿	一八	九	六	二	四	六
一八三未滿	二四	一二	六	二	四	六
一八三以上	三〇	一五	六	二	四	六
二四四未滿						
二四四以上						

第三十一條 旅客船ニ非ザル船舶ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船舶ノ種類	航行區域			汽船			
	遠洋區域	近海區域	沿海區域	救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰
第五種船	六	四	二	四	四	二	二
第六種船	二	二	一	一	一	一	一

第三十二條 國際航海ニ從事スル第一種船ニハ救命索發射器一組ヲ備フベシ

第四章 端艇及救命筏ノ附屬品

第三十三條 救命艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 權(各腰掛ニ付一挺)、豫備權二挺、操舵權一挺、權栓又ハ權架一組半及鈎竿一本
 - 二 各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、滄汲一箇及亞鉛鍍鐵製バケツ一箇
 - 三 舵一箇及舵柄又ハ索附橫舵柄一箇
 - 四 手斧二箇
 - 五 油ヲ滿タシ蓋ヲ整ヘタル燈一箇
 - 六 有效ナル羅針儀一箇
 - 七 一枚以上ノ良好ナル帆及附屬裝置ヲ備フル檣一本
 - 八 海錨一箇
 - 九 繫索一筋
 - 十 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器一箇(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ク得ル樣裝置シタルモノナルコトヲ要ス)
 - 十一 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇
 - 十二 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱
 - 十三 小型附屬品ヲ格納スルニ適當ナル箱一箇
- 第二級乙型救命艇ニハ前項各號ニ掲グル附屬品ノ外滄水「ポンプ」二箇ヲ備フベシ

第三十四條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條ノ規定ニ依ル附屬品ノ外左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇
- 二 定員一人ニ付半キログラムノ割合ノ煉乳

第三十五條 發動機附救命艇ニハ第三十三條ノ規定ニ依ル附屬品ヲ備ヘ且鈎竿一本ヲ増備スベシ但シ權ノ數ハ腰掛ノ數ノ二分の一ニ止メ檣及帆ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

長國際航海ニ従事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ前項ノ規定ニ依ル附屬品ノ外前條各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

第三十六條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ

探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及動源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一メートルノ幅ニ亘リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス

無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セララルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス

第三十七條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 權(各腰掛ニ付一挺)、豫備權二挺、操舵權一挺、權栓又ハ權架一組半及鈎竿一本
- 二 各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、浚汲一箇及桶一箇

三 舵一箇及舵柄又ハ索附橫舵柄一箇

四 繫索一筋

第三十八條 傳馬船其ノ他ノ舢舨ニハ權、舵及其ノ附屬品ニ代ヘ檣二挺、權一挺ヲ備フルノ外前條第二項各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

第三十九條 救命筏ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一 權四挺

二 權架五箇

三 繫索一筋

四 救命焰一箇

五 海錨一箇

六 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル様装置シタルモノナルコトヲ要ス)

七 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

八 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱

第四十條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ救命筏ニハ前條各號ニ掲グル附屬品ノ外定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇ヲ備フベシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ救命筏ニハ前條第四號乃至第八號ノ附屬品ヲ備フルコトヲ要セズ

第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示

第四十一條 己ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ端艇ハ上下ニ重ネテ積附ケ又他ノ端艇内ニ重ネテ積附クルコトヲ得但シ之ヲ進水セシムルニ當リ吊リ上ゲルコトヲ要スル積附ハ動力ニ依ル吊上装置ヲ備ヘザル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十二條 端艇鈎下ニ重ネテ配置シタル端艇ノ外其ノ内側ニ端艇又ハ救命筏ノ積附ヲ必要トスルトキハ之ヲ甲板上ニ横ニ積附クルコトヲ得但シ其ノ積附ハ端艇又ハ救命筏ガ之ヲ進水セシムル暇ナキ場合ニ於テハ船舶ヨリ離レテ容易ニ浮ビ得ル様之ヲ爲スベシ

端艇ヲ内側ニ配置スル場合ニ於テハ其ノ成ルベク多數ヲ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動シ進水セシムル爲管海官廳ノ適當ト認ムル移動装置ヲ設クベシ

第四十三條 端艇ハ其ノ揚卸ニ當リ相互ニ妨害セザル様特殊ノ方法ヲ講ズル場合ニ限り之ヲ二層以上ノ甲板ニ積附クルコトヲ得

第四十四條 端艇ハ進水ニ際シ推進器ニ接近シ危險ヲ生ズル虞アル位置又ハ船舶ノ前部ニ之ヲ積附クルコトヲ得ズ

第四十五條 端艇鈎ハ管海官廳ノ適當ト認ムル形式ノモノニシテ端艇ノ揚卸操作ガ他ノ端艇ノ揚卸操作ニ依リ妨害セラレザル様之ヲ配置スベシ

第四十六條 端艇鈎ニ配置セラレタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル吊索ヲ備附ケ且端艇ヲ吊索ヨリ迅速ニ取外ス爲ノ装置ヲ設クベシ

第四十七條 國際航海ニ従事スル第一種船及甲板旅客ヲ搭載スル第四種船ノ端艇揚卸装置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ短國際航海ニ従事スル船舶ニシテ最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ四・五メートル以下ノモノニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一 端艇鈎、滑車、吊索其ノ他ノ一切ノ器具ハ船舶ガ何レカノ側ニ一五度傾キタル場合ニ於テモ満載状態ノ端艇ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

二 吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ反對ニ一五度傾キタル場合ニ水面ニ達スル長サノモノナルコトヲ要ス

三 端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外艙裝品及艇手ノ全部ヲ搭載シタル端艇ヲ吊卸可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出スニ十分ナル力ヲ有スル装置ヲ備フベシ

四 二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ取扱ハルル場合ニ於テハ各端艇ニ付各別ニ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲ノ機械装置ヲ備ヘ且吊索ニ鋼索ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五 前號ノ場合ニ於テハ端艇ノ揚卸装置ハ各端艇ヲ順次迅速ニ卸シ得ルモノナルコトヲ要シ且鋼索ヲ捲返ス爲ノ機械装置ヲ備フルトキハ尙手動捲返装置ヲ備フベシ

第四十八條 鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ船舶ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ傳馬船其ノ他ノ舢舨ニ用ウル端艇鈎ノ徑ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

一 前條ノ規定ノ適用ヲ受クル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$10.9 \sqrt{\frac{W(H+45)}{12.5}} \text{ ヲリヤートル}$$

W ハ人(端艇ノ定員一人ニ付七五キログラムノ割合トス)及艙裝品ヲ満載シタルトキノ端艇ノ重量
(キログラムニテ)
H ハ上部支點ヨリ測リタル端艇鈎ノ高サ(メートルニテ)

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑(メートルニテ)
右算式ヲ適用スルニ當リテハ尙左ノ規定ニ依ル
(一) 端艇鈎ガ二箇以上ノ端艇ノ揚卸ニ使用セラルル場合ニ於テハWハ各端艇ノ重量中最大ナルモノトス

(二) Wヲ當該端艇ノ定員ニテ除シタル數ガ一〇〇未滿ナル場合ニ於テハWハ端艇ノ定員ニ一〇ヲ乗ジタルモノト看做ス

二 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$\sqrt[1.74]{\frac{L \times B \times D(H+4S)}{174}} \text{ ムリメートル}$$

L ハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾ニ於ケル之ニ相當スル點迄測リタル端艇ノ長サ(メートルニテ)

B ハ外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル端艇ノ最大幅(メートルニテ)

D ハ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷端迄測リタル端艇ノ深サ(メートルニテ)

H 及 S ハ前號ノ規定ニ依ル

第四十九條 救命筏及救命浮環ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ之ヲ進水セシメ得ル様備置クベシ

第五十條 救命浮環ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ取外シテ投ゲ得ル様之ヲ備置クベシ
船舶ノ各舷ニ備フル救命浮環中少クトモ一箇ニハ長サ二七・五メートル以上ノ救命索ヲ取附ケ置クベシ

第五十一條 救命焰ハ必要ナル取附具ヲ附シ其ノ屬スル救命浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

第五十二條 救命胴衣ハ容易ニ使用シ得ル様旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置スベシ

一 船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十三條 端艇、救命筏及救命浮環ニハ其ノ定員並ニ之ヲ搭載スル船舶ノ名稱及船籍港ヲ標示シ且端艇ニハ其ノ寸法ヲ標示スベシ

前項ノ標示ハ見易キ場所ニ明瞭且耐久的ナル文字ヲ以テ之ヲ爲シ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第五十四條 救命浮環ニハ船名ヲ標示スベシ第一種船ニ在リテハ救命浮環ノ備附場所ヲ示スベキ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第五十五條 救命胴衣ヲ備附ケタル箇所ニハ明瞭ナル標示ヲ爲シ且旅客室毎ニ救命胴衣ノ著用法説明書ヲ掲ゲ置クベシ

第六章 乘艇裝置

第五十六條 本章ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第五十七條 乘艇甲板ニハ旅客ノ乘艇ニ對スル適當ナル設備ヲ爲スベシ

各組ノ端艇鈎ニハ適當ナル梯子ヲ備置クベシ

第五十八條 各區畫室及各甲板ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル出入設備ヲ設クベシ

第五十九條 船舶ノ各部分殊ニ端艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明設備ヲ爲スベシ

最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ九・一五メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ端艇ノ吊出若ハ

吊卸作業中又ハ吊卸直後ニ於テ必要ニ應ジ船舶ヨリ端艇ヲ照明スル爲適當ナル設備ヲ設クベシ
前二項ノ安全照明設備ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ隔壁甲板以上ノ箇所ニ備ヘタル
獨立ノ動源ニ依リ照明シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第六十條 旅客又ハ船員ニ供用スル各主要區畫室ノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ照シ置クベシ

前項ノ非常燈ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ前條第三項ノ動源ニ依リ照明シ得ベキ裝
置ノモノナルコトヲ要ス

第六十一條 長國際航海ニ従事スル旅客船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ニ依ル信號裝置ノ外旅客ヲ集合所
ニ召集スル爲船橋ヨリ電氣裝置ニ依リ操作セラルル危急信號裝置ヲ適當ノ場所ニ備フベシ

第二編 消防設備

第一章 總則

第六十二條 本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ
甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ従事セザル船舶ニ付管海官廳該規定ヲ適用スルコト實際上不
可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考量シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコ
トヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第六十三條 船舶ニ備フベキ火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帯用泡消火器及携帯用
液體消火器ハ試験規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 前條ニ掲グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ
本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六十五條 消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル状態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第六十六條 船舶ニハ巡視員ガ近寄り得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乗組員ノ注意ヲ引キ
易キ一箇所又ハ數箇所ニア自動的ニ表示シ又ハ記錄スル火災警報裝置ヲ設クベシ

第六十七條 船舶ニハ十分ナル數ノ携帯用液體消火器ヲ備ヘ各機關室ニハ少クトモ二箇ノ携帯用液體
消火器ヲ配置スベシ

第六十八條 船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル裝具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

第六十九條 總噸數四千噸未満ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸汽「ボ
ンプ」其ノ他ノ動力「ボンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ボンプ」ハ船内何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二箇ノ強力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得
ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發航前何時ニテモ使用シ得ル状態ト爲シ置クコトヲ要ス

第七十條 前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防「ボンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ボンプ」ノ全部ヲ同
一室内ニ備フルコトヲ得ズ

汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐
室溢水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ボンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外
ノ場所ニ置クベシ

第七十一條 消防「ボンプ」ノ送水管ハ水密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板
ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様配置スベシ
送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル様配置スベシ